科目名	スポーツ科学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	今井 公一	配当年次	1	開講時期	1学期
		授業形態	講義	単位	2

授業概要

「スポーツ科学」とはアスリートに対しての分野と思われがちであるが、そもそも「アスリート」の定義についても曖昧な部分が 多い。本講義では、「人間はみなアスリートである」という考えの基、指導するうえで最低限必要な知識を得るとともに、なるべ く実際の指導現場の事例を挙げながら、生きた知識を学ぶ。

到達目標

- 以下を到達目標とする
 1) 理論だけではなく、実際の現場の事例(トレーニングやストレッチの効果、ダイエット等)も挙げながら生きた知識を得る。
 2) 筋カトレーニングやストレッチの種類について理解し、説明・実施することができる。
- 3)スポーツ科学において、昔から存在する「当たり前」について「それは本当か?」という視点を持ちながら学びたい。

授業計画

10 /K HI	
	授業計画・内容
第1回	人体のふしぎ~からだの中はどうなっているの?~
第2回	トレーニング概論~体力とは何か?~
第3回	トレーニングの原理原則
>1* - I	筋カトレーニングの種類
第5回	筋カトレーニング(体幹)
第6回	筋カトレーニング(上肢)
第7回	筋カトレーニング(下肢)
第8回	ストレッチの種類
第9回	ストレッチ(上肢)
	ストレッチ(下肢)
第11回	栄養について
	スポーツ科学におけるスキルとは~遺伝か環境か?~
第13回	様々な環境下での運動
第14回	授業総復習
第15回	定期試験
第16回	まとめ

授業時間外の学習

事前学習:特に必要はありませんが、良いコンディションで授業に臨んでください。 事後学習:講義で取り扱った内容を復習(実践)する。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験

使用テキスト

適宜指示する。

各講義ともパワーポイントを使用する。

担当教員の実務経験

パーソナルトレーナーとしての実務経験を有する

科目名	コミュニケーション	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	橋本 千恵	配当年次	1	開講時期	3学期
		授業形態	講義	単位	2

授業概要

医療従事者として高齢者施設、施術証明書、施術録ほか、患者への病状説明など硬筆を用いた作業は多い。その中で硬筆での書き 込みについては業務上の基礎能力として必要不可欠となる。専門用語・文体の整理について記述し実践できる。

到達目標

コミュニケーションツールとしての手書き文字を 正確に読みやすく書くことを身につける。ひらがな、カタカナを読みやすく書けるようになる。漢字を正確に読みやすく書けるようになる。文章を書くときに、ひらがなカタカナ漢字のバランスを考えて書けるようになる。手書き文字には書いた人の心も現れるため、相手に伝える、相手を思いやる、相手を尊敬する、ということを意識しながら丁寧に書けるようになる。

授業計画

双来的			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	日本の文字の成り立ち ひらがなの練習①		
第2回	ひらがなの練習② カタカナの練習		
第3回	漢字の練習①		
第4回	漢字の練習②		
第5回	自分の名前・住所 業務上よく使う漢字		
第6回	履歴書の書き方 漢字を使った文章		
第7回	履歴書の下書き		
第8回	定期試験		

授業時間外の学習

授業で使った教材を復習しながら、文字を書くときには常に「丁寧・正確」を忘れずに字を書く。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席が原則。

主体的かつ能動的な姿勢で取り組んでいること。

定期試験の60点以上で単位認定とする。

使用テキスト

毎回、教材を配布

科目名	医療情報処理 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	木浪信之	配当年次	1	開講時期	1学期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。 特に本講義では、文書作成では広く普及しているMicrosoft Wordを使ったレポートおよびビジネス書類の作成を学ぶ。

到達目標

パソコンを用いて、次のようにMicrosoft Wordを活用できるようになる。

- ①レポートの作成
- ②ビジネス文書の作成
- ③複数のアプリケーションを統合した活用

2年次のオンライン授業レポートに対応できる能力を身につける。

授業計画

授業計	
回数	授業計画・内容
第1回	導入(授業概要、目標)、コンピュータの基本設定の確認
第2回	Wordの基礎①(起動と終了、文字入力とファイル保存)
	Wordの基礎② (機能説明、キーボードの使い方)
第4回	Wordの基礎③(文章入力、ページレイアウト、書式設定、印刷設定)
	Wordの基礎④(箇条書き、段落設定、行の間隔)
第6回	Wordの基礎⑤(文字の装飾、フォント、表の挿入、罫線の設定)
	Wordの基礎のまとめ
第8回	Wordの応用①(特殊文字の入力、ワードアート、図形)
第9回	Wordの応用②(ヘッダーとフッター、ページ番号)
第10回	Wordの応用③(レポート作成、フォーマットの活用)
第11回	Wordの応用④ (特殊な書式、段組みの設定)
第12回	Wordの応用⑤(自由な位置に文字を入れる)
第13回	Wordの応用⑥(図形、表、画像などとの組み合わせ)
第14回	Wordの応用のまとめ①(複数のアプリケーションの活用)
第15回	Wordの応用のまとめ②(見栄えの良いレポート、ビジネス文章の作成)

授業時間外の学習

授業内容に関する課題を毎回与えます。知識の定着のために必ず復習すること。

成績評価

定期試験(80%)、課題(20%)を総合して評価する。

使用テキスト

世界一わかりやすいWordテキスト 2021/2019/2016/365対応板(技術評論社)

科目名	心理学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	濱田 由己	配当年次	2	開講時期	2学期
		授業形態	演習	単 位	1

授業概要

本授業は講義形式で行う。本授業は講義形式で行う。本授業では、心理学の歴史、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、性格心理学、社会心理学、臨床心理学について、各領域の理論および研究を概説する。心理学各領域の基礎知識を学ぶことで、対人援助者を目指す学生が人間の心と行動について理解を深めることを目指す。

到達目標

本授業では、心理学の主要分野における基礎知識を広く学び、心理学についての体系的な知識を習得することを目指す。心理学の 基礎知識を学ぶことで、学生が、人間についての理解を深め、他者や自身の心と行動について豊かな洞察力を養うことを目標とす る。

授業計画

100 M H	
	授業計画・内容
第1回	ガイダンス、心理学の歴史
第2回	知覚心理学 1 (外界の情報を取得する方法について理解する)
第3回	知覚心理学2 (視知覚に関わる要因について理解する)
第4回	知覚心理学3(視知覚に関わる要因について理解する)
第5回	認知心理学 1 (認知における注意の働きを理解する)
第6回	認知心理学2 (記憶のメカニズムについて理解する)
第7回	学習心理学 1 (条件付け、モデリング等、新しい行動や反応を習得する方法について理解する)
第8回	学習心理学2 (学習に関わる諸要因について理解する)
第9回	社会心理学1 (他者の存在が行動に与える影響について理解する)
第10回	社会心理学2(他者とのコミュニケーションについて理解する)
第11回	臨床心理学(心の病気と心理療法について理解する)
第12回	性格心理学1(人間の性格に影響を与える要因について理解する)
第13回	性格心理学2(人間の性格の分類やその評価方法について理解する)
第14回	性格心理学3(性格検査で表現される自身の性格について理解する)
第15回	筆記試験(レポート課題)
第16回	総括

授業時間外の学習

事後学習:各回で配布した資料を復習する。

成績評価

第15回の授業で実施するレボート課題(80%)と、毎回の授業で実施する確認テスト(20%)を用いて総合的に評価する。

使用テキスト

毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

科目名	医療情報処理2	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	木浪信之	配当年次	2	開講時期	1学期
		授業形態	講義	単位	1

授業概要

現代の社会活	舌動ではコンヒ	² ュータの活用	は不可欠である	ことを踏まえ、	コンピュータ	の基本的な操作	作を習得する。
本講義では、	表計算をはじ	じめとして広く	普及しているM	icrosoft Excelをイ	吏ったデータダ	処理とその活用	を学ぶ。

到達目標

コンピューターを使用してExcel の基礎的な使用方法を学び、さまざまなデータ処理ができるようにする。

授業計画

汉未即	ш
回数	授業計画・内容
第1回	導入(授業概要、授業目標)、Excelの操作説明(セルとデータの扱い方)
第2回	Excelの基礎① (起動と終了、データの入力・削除、表作成のコピーとオートフィル)
第3回	Excelの基礎②(データの移動・コピー、数式の入力、基本的な表計算)
第4回	Excelの基礎③ (関数の取り扱い、書式設定、Excel特有の操作)
第5回	Excelの基礎④(関数の活用とデータの集計、これまでのまとめ)
	Excelの応用①(相対参照と絶対参照、統計的な利用)
第7回	Excelの応用②(サンプルデータを利用した集計作業)
第8回	医療カルテを用いたExcelの実習

授業時間外の学習

授業内容に関する課題を毎回与えます。知識の定着のために必ず復習すること。

成績評価

定期試験(80%)、課題(20%)を総合して評価する

使用テキスト

講師作成によるオリジナルテキスト(開講時に配布)、毎回資料を配布する。

科目名	健康科学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	渡辺 長	配当年次	3	開講時期	3学期
		授業形態	講義	単 位	2

授業概要

健康科学では3年2学期まで学んできた基礎医学の総復習を行う。主に生理学の観点から、内臓の自律機能、神経機能、内分泌機 能、感覚機能、運動機能について、問題演習をしながら理解を深め国家試験に備える。

到達目標

生理学的に重要な分野について十分理解し国家試験に余裕をもって対応できる学力を身につける。

授業計画

100 M H	
回数	授業計画・内容
第1回	医療経済の概略
第2回	医療保険制度の仕組み
第3回	介護保険制度の成り立ち
第4回	介護保険制度の仕組み
第5回	施術者に求められる医療倫理
第6回	疾病予防と公衆衛生
第7回	WHO・母子保健・生活習慣病
第8回	試験/解説

授業時間外の学習

講義で配布した資料を読み柔道整復師の国家試験に求められる知識の整理を行う。また疑問点などがあれば教員に確認すること。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

配布資料を使用する。

担当教員の実務経験

10年以上理学療法士として総合病院で勤務し、主に高齢者疾患を対象としたリハビリテーションに従事。

科目名	リハビリテーション実践	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	渡辺 長	配当年次	3	開講時期	2学期
世当秋貝		授業形態	講義	単 位	2

授業概要

昨今の深刻な高齢化社会においてリハビリテーションの重要性は高まっている。リハビリテーションの在り方は機能的プローチに 留まらず、身体的・精神的・社会的にあるべき状態への回復を目指すことにある。この実践は医療従事者が一方的に提供するものではなく、柔道整復師はもちろん地域住民をも含めたアクターが相互に情報共有や役割を果たしながら、創りあげていくものであ る。本科目では、柔道整復師の観点から必要なリハビリテーションの概念、知識及び技術の習得を目指すと共に、柔道整復師に期 待される役割を学習する。そのため講義の中では生物学的知識の習得に限らず、他職種が果たす役割も交えながら、具体的事例の 介入と効果について考察する。また進め方の基本として学生各々が自らの考えを発展させ応用できるようにアクティブラーニング の要素を積極的に取り入れていく。

到達目標

- ・高齢化にまつわる日本社会や経済の変動と医療専門職が置かれた状況を理解する
- ・リハビリテーションの本義的観点から患者アプローチを再考できる視点を身に付ける。
- ・柔道整復師(国家試験)に求められるリハビリテーションの要素を体系的に理解する。

授業計画

10 /K HI	
	授業計画・内容
第1回	リハビリテーションの理念・障害モデル
	障害の捉え方
第3回	医療における各時期のリハビリテーションとチーム医療
	筋力増強訓練と筋収縮様式
第5回	関節可動域訓練
第6回	リハビリテーションにおける治療(物理療法)
第7回	脳卒中のリハビリテーション病態と分類
第8回	脳卒中のリハビリテーション失語とADL
第9回	義肢切断のリハビリテーション 1
第10回	義肢切断のリハビリテーション 2
第11回	補装具療法のリハビリテーション
第12回	補装具療法の種類と適応
第13回	小児疾患のリハビリテーション
第14回	呼吸・循環器疾患のリハビリテーション
第15回	定期試験
第16回	解説とまとめ

授業時間外の学習

予習:各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトに目を通しておくこと。 復習:学習した内容について知識の整理と定着を図ること。疑問点などがあれば担当教員に相談すること。

対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

三上真弘, リハビリテーション医学改訂第4版, 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修.

担当教員の実務経験

10年以上理学療法士として総合病院で勤務し、主に高齢者疾患を対象としたリハビリテーションに従事。

科目名	解剖学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	1	開講時期	後期
担当教員	10 具位	授業形態	講義	単 位	2

授業概要

Ι,	
林	
の形	
能やは	
語な	
・押解っ	
ナス	
t-x1	
ア 解ご	
凯学	
> HH = n.	
から	
色でド	
非	
二楼4	
な	
身心	
7	
11-2	
3.7	
レ 7	
7	
目的	
小	
す	
<u> </u>	

到達目標

具体的には細胞、組織、器官の形態と構造、脈管系、内臓系、神経系について形態と構造を理解し説明出来るようになる。

授業計画

100 M H	
	授業計画・内容
	解剖学の基礎1 細胞の構造
	解剖学の基礎2 組織 器官 発生
	脈管系1 循環経路 血管の種類
	脈管系2 心臓の構造
	脈管系3 動脈系1)大動脈 頭頚部の動脈
	脈管系4 動脈系2)上肢の動脈
	脈管系5 動脈系3)腹部の動脈
第8回	脈管系6 動脈系4)下肢の動脈
	脈管系7 静脈系1)頭頚部・上肢の静脈
第10回	脈管系8 静脈系2)腹部・下肢の静脈
	脈管系9 胎児循環 リンパ系
第12回	呼吸器系1 上気道
第13回	試験
第14回	解説
	呼吸器系2 気管 気管支 肺
第16回	呼吸器系3 胸膜 縦郭
	消化器系1 消化管の基本構造 口腔 咽頭
	消化器系2 食道 胃
	定期試験
第20回	解説

授業時間外の学習

教科書の図だけでは理解しにくいため、臓器や器官の解剖図(アトラス)も利用して立体的な構造をイメージできるようにすること。

成績評価

定期試験において60%以上の得点を獲得することで合格とする。

使用テキスト

生理学(南江堂)

科目名	解剖学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	2	開講時期	1学期
	10000000000000000000000000000000000000	授業形態	講義	単 位	2

授業概要

解剖学Iで学んだ解剖学Iに引き続き、人体の形態や構造を学ぶ。先ずは二大調節系の一つである神経系の復習から始まり、次にも う一方の調節系である内分泌系を解剖学の立場から理解する。最後に体内外の情報を中枢に入力する役割を持つ感覚器官の構造に ついて学ぶ。

到達目標

具体的には神経系(一部)、内分泌系、感覚器について形態と構造を理解し説明出来るようになる。

授業計画

双未即	ш
回数	授業計画・内容
第1回	神経系1 神経系の構成について復習
第2回	神経系2 伝導路1
第3回	神経系3 伝導路2
第4回	神経系4 脳神経
第5回	神経系 5 脊髄神経
第6回	神経系 6 自律神経系
第7回	内分泌系1 内分泌腺の構造 視床下部
	内分泌系 2 下垂体 甲状腺
第9回	内分泌系 3 副甲状腺(上皮小体) 副腎
第10回	内分泌系4 膵臓 精巣 卵巣
第11回	感覚器 1 外皮
第12回	感覚器2 視覚器
第13回	感覚器 3 聴覚器
第14回	感覚器2 平衡器 味覚器 嗅覚器
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

教科書の図のみでは不十分なため、次回の授業内容の範囲の臓器・器官の解剖図(いわゆる「アトラス」)を参照し、これを眺め ながら、立体的なイメージを捉えて、その臓器・器官の機能を類推することを予習として行ってほしい。

成績評価

定期試験において60%以上の得点を獲得することで合格とする。

使用テキスト

解剖学(南江堂)アトラス

科目名	生理学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	1	開講時期	後期
	10 具位	授業形態	講義	単 位	2

授業概要

人体内で健康状態を保つために行っている各器官の働きを学ぶ。 1 年時には基本的な生理学用語を学び、基礎知識を身につけることを目的とする。

到達目標

具体的には生理学の基礎、血液・循環・呼吸の生理学、消化と吸収、栄養と代謝、神経の基本的機能、神経系の機能、骨・筋肉・ 感覚の生理学を理解し説明出来るようになる。

授業計画

从不用	H
	授業計画・内容
	生理学で学ぶこと、ホメオスタシス
	細胞・組織・体液
第3回	血液1 血液の成分、血液細胞の働き
第4回	血液2 血液凝固 血液型
	血液3 免疫
第6回	循環1 循環経路 心臓の構造
第7回	循環2 心電図と心周期
× • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	循環3 血管の機能と血圧
第9回	循環4 循環の調節
	呼吸1 呼吸器の構造と特徴
第11回	呼吸2 換気のしくみ
	呼吸3 ガス交換
	試験
第14回	解説
第15回	呼吸4 ガス運搬
	呼吸5 呼吸の調節
	栄養と代謝1 栄養素の種類と働き
	栄養と代謝2 エネルギー代謝
	定期試験
第20回	解説

授業時間外の学習

動画を見て予習しておくこと。疑問点を残さないよう復習すること。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 定期試験で60%以上の得点を獲得した場合合格とする。

使用テキスト

生理学(南江堂)

科目名	生理学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科			
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	2	開講時期	1学期	
		授業形態	講義	単位	2	

授業概要

生	理学Iに引き続きヒ	トの生命現象の機序を学ぶ。	生理学IIでは植物性機能。	と呼ばれる生命維持の)	ためのしく	みとして、	血液、	循
環、	呼吸の機能を学ぶ	e Po						

到達目標

生物が示す生命現象の機序を理解するために生理学用語を学び、基礎知識を身につけることを目的とする。具体的には血液の成分 と各成分の働き、循環器の機能、呼吸のしくみを説明出来るようになることを目標とする。

授業計画

以未用	
	授業計画・内容
第1回	血液1血液の成分、血液細胞の働き
第2回	血液 2 血液凝固、血液型、免疫
第3回	骨の生理学1 骨吸収と骨形成
第4回	骨の生理学2 骨とカルシウム代謝
第5回	循環1 循環経路 心臓の構造
第6回	循環2 心電図と心周期
第7回	循環3 血管の機能と血圧
第8回	循環4 リンパ系
第9回	循環5 循環の調節
第10回	呼吸1 呼吸器の構造と特徴
第11回	呼吸2 換気のしくみ
	呼吸3 ガス交換
第13回	呼吸4 ガス運搬とヘモグロビンの働き
第14回	呼吸5 呼吸の調節
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

授業の復習は必ず行う。復習する時に教科書をよく読んで整理しておく。

成績評価

定期試験において60%以上の得点を獲得すること

使用テキスト

生理学(南江堂)

科目名	人体の構造と機能の変化	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	菅沼 眞澄	配当年次	2	開講時期	2学期
担当钦良	10000000000000000000000000000000000000	授業形態	講義	単 位	2

授業概要

人体の植物性機能の・	うち、	生理学IIで	扱えなか	った排泄	、消化、	栄養と代謝	について学る	ぶ。また、	これまで学ん	できた人	体の機能は
発達過程や加齢により	り特徴	的な変化を	をたどる。	一般の健	康成人	の生理的機能	と比較しな	がら、こ	れらの変化につ	ついて学ぶ	•

到達目標

人体の機能全般を理解する。さらに加齢よる特徴的な変化についても説明できるようになることを目標とする。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	尿生成1 腎臓の構造とネフロン、腎臓の役割、尿生成の過程
第2回	尿生成2 糸球体による濾過、尿細管での再吸収と分泌
第3回	尿生成3 排尿、体液の調節
第4回	栄養と代謝1 栄養素の種類と働き
第5回	栄養と代謝2 エネルギー代謝
第6回	消化と吸収1 消化器系の構成と働き
第7回	消化と吸収2 各消化器官の働き
第8回	消化と吸収3 消化の調節、肝臓の働き
第9回	体温とその調節
第10回	消化と吸収4
第11回	高齢者の生理学的特徴1 細胞組織の加齢現象
第12回	高齢者の生理学的特徴2 神経系
第13回	高齢者の生理学的特徴3 運動器系の変化
第14回	高齢者の生理学的特徴4 感覚器系の変化、高齢者に多い障害
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

授業の予習復習を行う。

成績評価

定期試験にて60%以上の得点を取得すること

使用テキスト

生理学(南江堂)

科目名	運動学	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	渡邉 義隆	配当年次	2	開講時期	2学期
世当钦良	没 我陛	授業形態	講義	単位	3

授業概要

運動に関する身体の構造と機能の関係や原理・理論を理解し、運動学の基礎知識を身につけることを目的とする。初めて運動学を 履修する学生に対し、基本的な内容を講義していく。ただし、力学の分野などでは高校で履修した物理の知識が要求される。苦手 だった人は基本的な内容で構わないので復習をしておいてほしい。また、解剖学や生理学の分野で履修する「神経系(特に反 射)」「感覚器系」「運動器系(特に筋系)」などについてあらためて復習する良い機会となる。苦手意識のある人はここでしっかりと理解してほしい。これらの内容(多くが前半にある)は予習を、後半の内容は復習をしっかり行い、国家試験の過去の問題 演習などを通じて、各章の押さえるべき基本的な内容を説明できるレベルになることを期待する。

到達目標

教科書で紹介されている運動学の基礎知識(身体運動と力学、運動器の構造と理解、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習等)を理解すること。運動障害の分析方法を学び、正常運動と比較し説明出来るようになること。また、運動に関する身体の構造と機能の関係や原理・理論を総合的に理解することで、運動学の知識を応用させることができるようになることを目標とする。

■授業計画

回数 授業計画・内容 回数 授業計画・内容 第1回 オリエンテーション「運動学の目的、運動の表し方」 第21回 体幹関節機能と筋② 第2回 「身体運動と力学」前半(人体における単一機械構造) 第22回 定期試験対策演習 第3回 「身体運動と力学」後半 第23回 定期試験 第24回 定期試験 第24回 定期試験解説、総括 第5回 「運動感覚」 第6回 「反射と随意運動」前半(反射) 第7回 「反射と随意運動」後半(連合運動と共同運動以降) 第7回 「次数サービル(力は変数サイズ)	
第2回 「身体運動と力学」前半(人体における単一機械構造) 第22回 定期試験対策演習 第3回 「身体運動と力学」後半 第23回 定期試験 第4回 「神経の構造と機能」 第24回 定期試験解説、総括 第5回 「運動感覚」 定期試験解説、総括 第6回 「反射と随意運動」前半(反射) 第7回 「反射と随意運動」後半(連合運動と共同運動以降)	
第3回 「身体運動と力学」後半 第23回 定期試験 第4回 「神経の構造と機能」 第24回 定期試験解説、総括 第5回 「運動感覚」	
第4回 「神経の構造と機能」 第24回 定期試験解説、総括 第5回 「運動感覚」 第6回 「反射と随意運動」前半(反射) 第7回 「反射と随意運動」後半(連合運動と共同運動以降)	
第5回 「運動感覚」 第6回 「反射と随意運動」前半(反射) 第7回 「反射と随意運動」後半(連合運動と共同運動以降)	
第6回 「反射と随意運動」前半(反射) 第7回 「反射と随意運動」後半(連合運動と共同運動以降)	
第7回 「反射と随意運動」後半(連合運動と共同運動以降)	
MEOロ 「外動」子(上上が動する)	
第8回 「姿勢」前半(立位姿勢まで)	
第9回 「姿勢」後半(立位姿勢の制御以降)	
第10回 「歩行」前半(歩行の運動力学的分析まで)	
第11回	
第12回 「運動発達」前半(全身運動まで)	
第13回 「運動発達」後半、運動学習	
第14回 上肢関節機能と筋①	
第15回 上肢関節機能と筋②	
第16回 上肢関節機能と筋③	
第17回 下肢関節機能と筋①	
第18回 下肢関節機能と筋②	
第19回 下肢関節機能と筋③	
第20回 体幹関節機能と筋①	

授業時間外の学習

講義では教科書以外に内容をまとめたプリントを配布する。基本的な事項だけを取り上げているので、最低限、この内容の復習を 行ってほしい。初めて習う内容は予習が難しいと思われるので、まずは復習をしっかり行ってほしい。また、他科目で既に履修し ている内容、関連する事項を履修することも多々あるので、これらを履修した際に関連科目も併せて復習することで理解度が増 し、一見、理解しにくい基礎医学科目を学ぶことが楽しいと実感できるはずです。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

運動学改訂第3版(医歯薬出版株式会社) 講義内容をまとめたプリントを配布するほか、自学の際に参考となる資料を講義中に適 宜紹介する。

担当教員の実務経験

歯科医師としての実務経験を有する。

科目名	病理学概論	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	渡邉 義隆	配当年次	2	開講時期	1学期
世当秋貝		授業形態	講義	単 位	2

授業概要

病理学の基本的知識を身に付け、病的状態の分類や代表的な疾患の原因、その症状などを理解することを目的とする。初めて病理 学を履修する学生に対し、基本的な内容を講義していく。病理学は「身体の異常時の状態」を学ぶため、「身体の正常時の状態」 を学ぶ生理学の基本的な知識が要求される。生理学に苦手意識のある人はこれを機会に復習を充分してほしい。他にも衛生学・公 衆衛生学など他科目で履修する分野とリンクする内容も少なくない。「幸い今まで病気にはあまり縁がない」ため、様々な病気の機序~転帰までを初めて学ぶことが難しいと感じる人も多いと思われる。しかし、講義中には基本的な内容の国家試験の過去出題 された問題の演習も取り入れるので、興味深く学んで頂き、基本的な事項を説明できるレベルになってほしい。

到達目標

柔道整復師が臨床上必要とすべき病理学領域は以下の点であり、これらを理解し、説明できるようになることを目標とする。ま ず、教科書の最初に紹介されている「病理学とはどのような学問か」「疾病の分類」などについて学び、次に、病気の原因や成り 立ちなどの基本的知識を「細胞障害」「循環障害」等を通じて学び、理解する。さらに、それらの領域の代表的な疾患名、症状な どを理解し、説明できるようになることを目標とする。

授業計画

O4 214 111	
回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション、第1章「病理学の基礎」第2章「疾病の一般」
第2回	第3章「細胞障害」前半(色素代謝異常まで)
第3回	第3章「細胞障害」後半および第4章「循環障害」の一部
第4回	第4章「循環障害」
第5回	第5章「進行性病変」
第6回	第6章「炎症」前半(炎症の経過による分類まで)
第7回	第6章「炎症」後半(炎症の形態による分類)および第7章「免疫・アレルギー」の一部
第8回	第7章「免疫・アレルギー」
	第8章「腫瘍」①(腫瘍の増殖と進展まで)
第10回	第8章「腫瘍」②(良性腫瘍まで)
第11回	第8章「腫瘍」③(悪性腫瘍、問題演習)
第12回	第9章「先天性異常」
第13回	第10章「病因」前半(物理的外因の温度まで)
第14回	第10章「病因」後半、定期試験対策
第15回	定期試験
第16回	定期試験解説・総括

授業時間外の学習

初めて学ぶ人にとっては、難しい用語、カタカナのよくわからない病名など、勉強しにくいかもしれない。しかし、様々な情報が飛び交う昨今、病理学を学ぶヒントとなる情報も実は多く存在する。例えば、有名人がある病気に罹患し、それをSNSで公表するなどである。病名をネットで調べれば、多くの情報を得ることが可能である。こうした情報を上手く活用することで無味乾燥なひた すら病気を暗記することより理解力は深まるであろう。本講座では予習よりも復習を大切にしてほしいが、関連する生理学の内容 については、事前に復習した上で講義に臨んで頂きたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

病理学改訂第3版(医歯薬出版株式会社) 講義内容をまとめたプリントを配布するほか、自学の際に参考となる資料を講義中に適 宜紹介する。

担当教員の実務経験

歯科医師としての実務経験を有する

科目名	整形外科学	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	志村 圭太	配当年次	3	開講時期	1学期
担当飲貝	芯州 主人	授業形態	講義	単位	2

授業概要

本科目では、多種多様な整形外科疾患の概要(病態、診断、治療、リスク管理)を理解すべく、柔道整復師が日常業務で遭遇する頻度の多い運動器疾患から若年者のスポーツ傷害まで網羅的に学修する。履修にあたっては運動器の基礎を理解していることが重要であり、これまで学修した運動学、解剖学、生理学を十分に復習しておくことが望まれる。講義中心の授業ではあるが、適宜簡単な実技も含まれるため、学生の積極的な参加が望まれる。

到達目標

- 1.骨、関節、筋、靭帯、腱を主とする運動器の構造と機能について説明できる 2.整形外科で用いられる診察法、検査法、治療法の概要を説明できる
- 3.骨関節損傷の概要を説明できる
- 4.代表的な整形外科疾患(第3回-4回;疾患別各論)の概要を説明できる
- 4.四肢と体幹の主要な運動器疾患の病態、診断、治療の概要を説明できる

म्बर आहे जा राज

授業計	ш
回数	授業計画・内容
第1回	運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法
第2回	整形外科的治療法、骨関節損傷総論
第3回	疾患別各論,感染性疾患、腫瘍、全身の骨・軟部疾患
第4回	疾患別各論,骨端症、四肢循環障害、神経・筋疾患
第5回	疾患別各論,四肢の神経麻痺と紋扼性神経障害 スポーツ整形外科総論 リハビリテーション総論
第6回	第1-5回のまとめ 問題演習 定期テスト・国家試験対策
第7回	身体部位別各論;頚椎、胸椎、腰椎
第8回	身体部位別各論;肩、肩甲带
第9回	身体部位別各論;上腕、肘関節
第10回	身体部位別各論;手関節、手指
第11回	身体部位別各論;骨盤、股関節
第12回	身体部位別各論;大腿骨、膝関節
第13回	身体部位別各論;下腿、足関節、足趾
第14回	第7-12回のまとめ
第15回	定期試験
第16回	定期試験振り返りと解説

授業時間外の学習

事前学修:運動学、解剖学を中心として、これまで学習した運動器に関連する講義を復習する。また教科書の各回該当範囲を一読す

事後学習:講義資料と教科書を照らし合わせ復習する。小テストで原点となった項目について重点的に復習する。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある教科書該当範囲ならびに授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および症例問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。 学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

教科書:全国柔道整復学校協会監修.整形外科学.改訂第4版.南江堂.2017

毎回講義資料を配布する

参考書は授業内で適宜紹介する。

担当教員の実務経験

理学療法士として医療機関およびスポーツ現場においての実務経験を有する。

科目名	外科学概論	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	渡邊修司	配当年次	3	開講時期	
122 3 400 貝	渡 修刊	授業形態	講義	単位	2

授業概要

外科領域の疾病を理解し、治療法を学ぶことを目的とする。

到達目標

外科学領域の「損傷」、「炎症と外科感染症」、「腫瘍」、「ショック」、「輪血・輪液」、「消毒滅菌」などについて理解する とともに、各種疾患における外科的治療を説明できるようになる。

授業計画

汉未刊	
回数	授業計画・内容
	1章:損傷
第2回	2章:炎症と外科感染症
第3回	3章:腫瘍
第4回	4章:ショック
第5回	5章:輸血、輸液
第6回	6章:消毒と滅菌 7章:手術
	8章:麻酔
第8回	9章:移植と免疫
	10章:出血と止血
第10回	11章:心肺蘇生法
第11回	12章:脳神経外科疾患 13章:甲状腺・頸部疾患
	14章:胸壁・呼吸器疾患 15章:心臓・脈管疾患
第13回	16章:乳腺疾患 17章:腹部外科疾患
	試験前対策
	定期試験
第16回	問題返却・解説

授業時間外の学習

- 授業内容のまとめ
- ・関連する国家試験問題の予習復習

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

外科学概論 改訂第4版 南江堂

科目名	リハビリテーション医学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	大塚 博史	配当年次	2	開講時期	1学期
	八塚一侍史	授業形態	講義	単 位	2

授業概要

医療技術の進歩によって疾患の治癒率が上昇した一方、様々な障害や社会的問題を抱える人々は年々増加しており、リハビリテー ション医学を学ぶ意義は高まっている。本授業では、リハビリテーションの理念およびリハビリテーション医学領域の障害・疾患 等について解説を行い、周辺知識を身に付ける。

到達目標

リハビリテーション医学領域において、臨床で必要となる知識を学び、国家試験問題が解けるようになることを目的とする。

授業計画

回数	授業計画・内容
第1回	リハビリテーションの理念/リハビリテーションの対象と障害者の実態 ※配布資料
第2回	障害の階層とアプローチ(ICDとICIDH、他) ※配布資料
第3回	障害の階層とアプローチ(ICF-CYについて、他) ※配布資料
第4回	リハビリテーション評価学 ※配布資料
第5回	リハビリテーション障害学(障害の評価、他) ※配布資料
第6回	リハビリテーション障害学(痙縮、他) ※配布資料
第7回	リハビリテーション治療学 ※配布資料
第8回	リハビリテーション医学の関連職種 ※配布資料
第9回	リハビリテーション治療技術(理学療法、作業療法、他) ※配布資料
第10回	リハビリテーション治療技術(装具、義肢) ※配布資料
第11回	リハビリテーション治療技術(歩行補助具、車椅子、他) ※配布資料
第12回	脳卒中(総論) ※配布資料
第13回	脳卒中(概論)/パーキンソン病 ※配布資料
第14回	高齢者のリハビリテーション ※配布資料
第15回	試験解説/まとめ

授業時間外の学習

予習として授業計画に示された教科書範囲を熟読し、復習として授業内容をノートにまとめるなど確認作業を行うこととする。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

- 1. 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 第4版
- 2. 配布資料

担当教員の実務経験

整形外科病院等において、柔道整復師としての実務経験を有する。

科目名	柔道整復術の適応	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	昇 寬、嶋田裕司	配当年次	3	開講時期	1学期
	开 兒、喝口竹口	授業形態	講義	単位	2

授業概要

整形外科、内科等の観点から柔道整復術の適応について理解することができる。

スポーツ障害や傷害を理解できる。 サルコペニア等の障害を理解できる

バイオセラピー等の療法について理解できる。

到達目標

柔道整復師の施術の範囲について整形外科的見地から、柔道整復師の取り扱う外傷における適切な範囲について把握する。さらに

務範囲内にあっても、治癒経過、全身状態、患者のQOLの観点から望ましいと判断できる選択について説明できるようになる。

授業計画

O4 214 III	
	授業計画・内容
	柔道整復術の適否を考える
	損傷に類似した症状を示す疾患(内臓疾患の投影を疑う疼痛)
第3回	損傷に類似した症状を示す疾患(腰痛を伴う疾患、化膿性の炎症)
	血流障害・末梢神経損傷
	脱臼骨折
	外出血を伴う損傷・病的骨折・脱臼
第7回	意識障害を伴う損傷
第8回	脊髄症状のある損傷
第9回	呼吸運動障害を伴う損傷、スポーツ損傷
	内臓損傷の合併が疑われる損傷
	高エネルギー外傷(外傷性ショック、播種性血管内凝固症候群)、サルコペニアに対する療法
	高エネルギー外傷(脂肪塞栓症候群、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症)
第13回	整形外科からみる柔道整復で取り扱った外傷の適応事例、バイオセラピー療法
第14回	まとめ
第15回	まとま・定期試験
第16回	解答解説

授業時間外の学習

- ・授業内容のまとめ
- ・関連する国家試験問題の復習

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 医療の中の柔道整復

科目名	衛生学・公衆衛生学	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	昇 寬、嶋田 裕司	配当年次	2	開講時期	2学期
	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	授業形態	講義	単 位	3

授業概要

我が国の健康に関する課題は、1) 超高齢社会・少子高齢化社会に起因した生活習慣病に関する問題、2) 公害・地球環境を含む環境問題、3) 働き方に関わる産業保健、4) 国際化の時代に対応した国際保健など多岐にわたる。公衆衛生の基本的な知識と考え方の基本が身につくような授業を行う。衛生学・公衆衛生学の基本的な知識を習得できるようにする。健康に関する行動の変容や維持のための働きかけを行う。

到達目標

人間と環境との関係性を現代科学的に理解することを目的とする。我が国を中心とする衛生学・公衆衛生学領域における「衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動」、「健康の概念」、「疾病予防と健康管理」、「感染症の予防」などを理解し説明できるようになる。人間と環境の関係を理解し説明できる。健康行動を理解し、見につけ、習慣として暮らすことができる。

授業計画

回数 授業計画・内容 回数 授業計画・内容 第21回 佐藤の概念・医の倫理 第21回 医療安全 第22回 疾寺予防水準・健康日本21 第22回 疾学 第3回 健康指標(衛生統計) 第23回 まとめ・定期試験 第4回 健康習慣 第24回 解答解説 第5回 感染症予防①病原体の種類・予防対策 第6回 感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど 第7回 消毒と滅菌 第6回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因 (温熱・音・気圧など) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第11回 定棄保健②作業管理 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第15回 産業保健②健康管理 第15回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・差人保健 第17回 成人保健・差し保健 第19回 地域保健・国際保健 第19回 地域保健・国際保健 第19回 地域保健・国際保健 第19回 地域保健・国際保健 第19回 地域保健・国際保健 第20回 衛生行政・保健医療制度	W 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
第2回 疾病予防水準・健康日本21 第23回 疾学 第3回 健康指標(衛生統計) 第23回 まとめ・定期試験 第4回 健康習慣 第24回 解答解説 第5回 感染症予防①病原体の種類・予防対策 第6回 感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど 第7回 消毒と滅菌 第8回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第3回 健康指標 (衛生統計) 第23回 まとめ・定期試験 第4回 健康習慣 第24回 解答解説 第5回 感染症予防①病原体の種類・予防対策 第6回 感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど 第7回 消毒と滅菌 第8回 環境保健①物理的環境要因 (温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因 (空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②作業管理・作業環境管理 第17回 成人保健・老人保健 第17回 成人保健・老人保健		7	第21回	
第4回 健康習慣 第24回 解答解説 第5回 感染症予防①病原体の種類・予防対策 第6回 感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど 第7回 消毒と滅菌 第8回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第16回 産業保健②健康管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第2回	疾病予防水準・健康日本21	第22回	疾学
第5回 感染症予防①病原体の種類・予防対策 第6回 感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど 第7回 消毒と滅菌 第8回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健		健康指標(衛生統計)		
第6回 感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど 第7回 消毒と滅菌 第8回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健	第4回		第24回	解答解説
第7回 消毒と滅菌 第8回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第5回			
第8回 環境保健①物理的環境要因(温熱・音・気圧など) 第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第6回	感染症予防②結核・エイズ・インフルエンザなど		
第9回 環境保健②化学的環境要因(空気・水) 第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健	第7回	消毒と滅菌		
第10回 公害・地球環境問題 第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第8回			
第11回 廃棄物処理・住居・衣服 第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第9回	環境保健②化学的環境要因(空気・水)		
第12回 栄養・食品衛生 第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第10回			
第13回 母子保健 第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第11回			
第14回 学校保健 第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健				
第15回 産業保健①作業管理・作業環境管理 第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第13回			
第16回 産業保健②健康管理 第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第14回			
第17回 成人保健・老人保健 第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健	第15回			
第18回 精神保健 第19回 地域保健・国際保健				
第19回 地域保健・国際保健				
第20回 衛生行政・保健医療制度	第19回			
	第20回	衛生行政・保健医療制度		

授業時間外の学習

講義毎に、指定された教科書の範囲の予習を行うこと。

授業内で配布した資料と講義内容について復習を行うこと。

毎講義時に、問題集の該当範囲から、または担当教員が作成した問題を試験として出題する。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として、小テストを含めた総合評価を行う。

使用テキスト

衛生学・公衆衛生学 改訂第6版 株式会社南江堂 必要に応じて、資料を配布する。

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校

科目名	関係法規	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	中神 太一	配当年次	3	開講時期	2学期
		授業形態	講義	単 位	2

授業概要

従来の憲法および柔道整復法・医療法・その他関係法規の内容に加えて、「患者中心の医療」や「良質な医療の提供」にみられる ような近年の医療を取り巻く環境変化を知り、それらを踏まえたうえで法を理解することができる。 都度、授業の初めに前回の復習を目的とした小テスト(4択)を実施し、定期試験は過去問(4択)オリジナル問題(4択)で構 成する。

到達目標

法の体系を学び、様々な用語の意味を理解し、柔道整復師法その他医療従事者の資格法、医療法等の内容を把握する。 そのうえで免許取得後、柔道整復の業について適法に行うことができることを目的とする。

また、国民医療費を扱う柔道整復師として施術管理者の要件や社会保障の現状や今後を理解し、国民の税金を扱う立場に立つ自覚 を持つ。

授業計画

	• •
回数	授業計画•内容
第1回	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方、関係法規について、国家試験の傾向など) P1法の意義 ~P2法の体系
第2回	P2 法の体系 ~ P3 柔道整復に関する法規
第3回	P4 患者の権利 ~ P9 リスクマネジメント
第4回	P10 柔道整復師の目的 ~ P15 免許
第5回	P16 免許 ~ P23 柔道整復師国家試験
第6回	₽24 業務 ~ ₽28
第7回	P 2 9 施術所 ~ P 3 6 広告
第8回	P 3 7 罰則 ~ P 4 5 附則
第9回	復習
第10回	P 4 7 医療従事者の資格法 ~ P 6 7 医療法
第11回	P66 医療法 ~ P89 社会福祉法規
第12回	P88 社会福祉法規 ~ P94 社会保険関係法規
第13回	P101 個人情報の保護に関する法律 その他補足事項
第14回	総復習
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

教科の特性上、これまで聞いたことないよいうな難しい言葉が頻繁に出てくる。そのたびに各自、辞書やインターネットで調べる 習慣を身につける努力をすることが望ましい。その上で簡単な言葉で自ら説明する訓練をする。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

範囲は試験前に指定した範囲とする。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う。

各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。 学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 関係法規 2023年度版 (授業計画欄のページは2022年度版を参照)

担当教員の実務経験

科目名	職業倫理	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	3	開講時期	3学期
	中仲一太一	授業形態	講義	単位	1

授業概要

社会保障制度の全体像を把握し、その中でも柔道整復師として深くかかわる社会保険、特に医療制度の内容や現状について適切に 理解する。また柔道整復師特有の職業倫理について学ぶことで免許取得後、医療従事者の一員として社会に貢献する土台を作って おく。

到達目標

①社会保障について、自分の言葉で説明できる

- ②その中でも医療保険については現状、課題などの説明できる
- ③療養費制度について理解し、請求方法の概要をつかむ
- ④医療従事者の職業倫理について学び、医療従事者としての基本的な姿勢を持つ

授業計画

以未刊	
	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・社会保障とは
第2回	医療保険制度
第3回	療養費制度
第4回	療養費請求のケーススタディ
第5回	医療従事者の職業倫理
第6回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
第7回	柔道整復師の社会的責任と対応
第8回	まとめ

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに自宅で繰り返し学習すること、また教科担当に不明点および理解に至らない点は質問することを推 奨する。また、日常的に社会保障問題などについてはアンテナを張って興味を持つと良い。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う

試験結果については定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理

担当教員の実務経験

科目名	柔道 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	三野 充	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	実技	単位	1

摇	攀	胍	再
17	_	1DML	72

礼法、受身、投技(手技、腰技、足技	5) が出来ろようになる。①人格の尊重	②怪我の防止 ③自他共栄 を理解する

到達目標

柔道を通じて柔道の基本的な投げを身に付けることを目的とする。浮腰、払腰、浮落、背負投、送足払、支釣込足などができるようになる。

授業計画

双未刊	ш
回数	授業計画・内容
第1回	授業計画・内容
第2回	柔道の歴史
第3回	柔道衣の着方
第4回	礼法 座受身(後方
第5回	礼法 座受身(後方、側方、前方)
第6回	礼法 中腰受身
第7回	礼法 立受身
第8回	礼法 前回り受身①
第9回	礼法 前回り受身②
第10回	礼法 前回り受身③
第11回	手技
第12回	足技
第13回	腰技
第14回	約束稽古
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

成績評価

年間出席の2/3以上の出席が原則。定期試験の年間平均60点以上で単位認定とする。

使用テキスト

科目名	柔道Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	三野 充	配当年次	3	開講時期	1学期
		授業形態	実技	単 位	1

授業概	
柔迫を趙し	じて身体精神の修養することを目的とする。
_	
到達目	標
柔道におり	ける礼儀、作法、乱取りなどを行うことで基本的人間育成や人間尊重ができるようになる。
授業計	圃
	授業計画・内容
第1回	ガイダンス
第2回	礼法①
第3回	礼法②
第4回	受け身
第5回	手技①
第6回	手技②
第7回	腰技①
第8回	腰技②
第9回	足技①
第10回	足技②
第11回	約束稽古①
第12回	約束稽古②
第13回	乱取り①
第14回	乱取り②
第15回	定期試験
第16回	解説
授業時	間外の学習
成績評	.研
年间出席0	02/3以上の出席が原則。定期試験の年間平均60点以上で単位認定とする。
# m =	h mail
使用ア	キスト
担当教	員の実務経験

科目名	社会保障制度	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗	配当年次	1	開講時期	後期
1世 = 40 貝	口以「日ルグ	授業形態	講義	単 位	1

授業概要

柔道整復師における社会保障を適切に理解することができる。また柔道整復師特有の職業倫理について説明することができる。

到達目標

社会保障制度として社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生の概略、特に医療保険制度の各種保険の適切な利用方法 と公的扶助における生活保護法、労働保険における労働災害補償保険、介護保険法など、柔道整復師が施術する患者の社会保障範 囲について説明できるようになる。

拇拳計画

双未即	
	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・社会保障とは
第2回	医療保険制度
第3回	療養費制度
第4回	療養費請求のケーススタディ
	医療従事者の職業倫理
第6回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
第7回	柔道整復師の社会的責任と対応
第8回	定期試験 まとめ

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに自宅で繰り返し学習すること、また教科担当に不明点および理解に至らない点は質問することを推 奨する。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、及び授業用プリントの内容をふくむ。 試験はレポート方式で行う。

試験の解答に疑義がある場合は社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、授業用プリントのみを基準として申しでること。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	1	開講時期	前期
		授業形態	講義	単位	2

授業概要

柔道整復学履修に必要な基本的知識を身につける。

到達目標

初年度教育として柔道整復学の教科書の構成、教科概要について全体像を理解するとともに、常用される医学用語を使用・理解で きるようになる。

授業計画

O4 214 III	
回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス
第2回	専修学校・学習法の理解
	PCにおける学習利用の理解
× · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	医療用語の暗記・読解力の向上
	医療用語の暗記・読解力の向上2
第6回	医療用語の暗記・読解力の向上3
	実技を用いたの行動の記述と解釈
第8回	ディスカッションによる問題解決(教科書要約)
第9回	ディスカッションによる問題解決(教科書要約発表)
第10回	文章の校正と記述
第11回	文章の校正と記述 2 (section 2)
第12回	図の構成と描写
第13回	図の構成と描写 2 (section 3)
第14回	文章の解釈と記述1
第15回	文章の解釈と記述2
第16回	文章の解釈と記述3
第17回	文章の解釈と記述3(section4)
第18回	グループディスカッションによる問題解決
第19回	グループディスカッションによる問題解決2
第20回	グループディスカッションによる問題解決(section5)

授業時間外の学習

授業外でも当校指定のICTブラットフォームを日常的に使うこと。学習効果については、日々の学習に取り入れることが、訓練であ り効果となっていくため、ぜひ実践してください。

成績評価

課題による試験から定期試験の30点分を事前に示しPCによる効果測定を行う。(section1は3課題;各10点ずつ)

文章の校正と記述からレポート課題から口頭試問を行う(section2;10点)

図 文章

の構成と描写から指定された図・表を完成させる (section3;10点) の解釈と記述から即時的な理解や発表による読解力と表現力を確認する (section4;10点)

グループディスカッションによる広大な授業範囲を複数名で問題解決を行う協調性をみる(section5のみ;40点)

section 1~5はそれぞれ得点を設けるが、sectionは段階的に進捗することから、課題の完成は必要となる。

使用テキスト

授業特性上その都度資料を配布いたします。

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 大一	配当年次	1	開講時期	通年
		授業形態	講義	単 位	5

授業概要

総論総説における捻挫脱臼(p12-19,p46-59)、筋の損傷(p64-p70)についての損傷状態について理解するほか、 鎖骨骨折からモンテギア骨折の各論について理論編(p174-214)実技編(p62-146)を用いて損傷の発生機序から治癒または後遺症にお いてまでを学ぶ。

到達目標

柔道整復学の捻挫・脱臼における総論および、上肢骨折について授業概要の範囲を説明することができる。また、いかなる出題形 式の国家試験を解けるレベルでの理解度の修得を目指す。

授業計画

及未用			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス 人体に加わる力	第21回	D.上腕骨骨幹部骨折
第2回	損傷時に加わる力・痛みの基礎	第22回	D.上腕骨骨幹部骨折 2
第3回	関節の損傷(捻挫ー脱臼)A-B	第23回	D.上腕骨骨幹部骨折 3
第4回	関節の損傷(捻挫一脱臼)C-D	第24回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折
第5回	関節の損傷(捻挫一脱臼)E-F	第25回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折 2
第6回	筋の損傷A-C	第26回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折 3
第7回	筋の損傷D-F	第27回	E.上腕骨遠位部骨折,1上腕骨顆上骨折 4
第8回	A.鎖骨骨折	第28回	E.上腕骨遠位部骨折,2上腕骨外顆骨折
第9回	A.鎖骨骨折 2	第29回	E.上腕骨遠位部骨折,3上腕骨内側上顆骨折
第10回	A.鎖骨骨折 3	第30回	F.前腕骨近位端部骨 1橈骨近位端部骨折
第11回	B.肩甲骨骨折 1.体部・上・下角骨折	第31回	F.前腕骨近位端部骨 2肘頭骨折
第12回	2関節窩骨折,3頚部骨折,4肩峰骨折,5烏口突起骨折	第32回	G.前腕骨骨幹部骨折 1橈骨骨幹部骨折
第13回	C.上腕骨近位部骨折 1骨頭骨折,2解剖頚骨折	第33回	G.前腕骨骨幹部骨折 2ガレアジ骨折 3尺骨骨幹部骨折
第14回	3外科頚骨折	第34回	G.前腕骨骨幹部骨折 4モンテギア骨折
第15回	3外科頚骨折2	第35回	G.前腕骨骨幹部骨折 4モンテギア骨折 2
第16回	3外科頚骨折3	第36回	総復習
第17回	4大結節,5小結節単独骨折,6近位骨端線離開	第37回	総復習
第18回	総復習 試験対策	第38回	演習問題
第19回	前期定期試験	第39回	後期定期試験
第20回	前期定期試験	第40回	後期定期試験

授業時間外の学習

学び始めの時期であるからこそ、前提となる解剖学の知識を日々深めていくことが学生には望まれる。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。

試験电面はファバスの項目にめる理論権・美技権およい技業用アリフトの内容をあくせ。 試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版 復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

全国柔道整

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	三野 勝大	配当年次	1	開講時期	通年
		授業形態	講義	単 位	5

授業概要

総論における骨折(p20~46)の損傷状態について理解するほか、橈・尺両骨骨幹部骨折から末節骨骨折の各論(p214~244)につ いて、損傷の発生機序・症状・合併症・固定について学ぶ。

到達目標

柔道整復学の総論、および上肢骨折について授業範囲を説明することを目標とする。

・総論については骨折の分類、症状、合併症を理解して説明で きる。 ・ 上肢骨折については、発

生機序、特徴、症状、合併症、治療法を理解して説明できる。

授業計画

24 214 111			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	【骨の損傷】 A.骨の形態と機能	第21回	【I .手根部の骨折】1舟状骨骨折1
第2回	B.骨損傷の概説	第22回	1舟状骨骨折2
第3回	C.骨折の分類 1	第23回	2三角骨骨折、3有鈎骨骨折
第4回	C.骨折の分類 2	第24回	4豆状骨骨折
>1* - I	D.骨折の損傷 (骨折の1.局所症状・2.全身症状)	第25回	【J.中手骨部の骨折】1骨頭部骨折
第6回	E.骨折の合併症 (1.併発症・2.続発症)	第26回	2中手骨頚部骨折
	E.骨折の合併症 (3.後遺症)	第27回	3中手骨骨幹部骨折
第8回	F.小児の骨折・高齢者骨折 (1.小児骨折)	第28回	4第1中手骨基部骨折1(ベネット、ローランド)
第9回	F.小児の骨折・高齢者骨折 (2.高齢者骨折)	第29回	4第1中手骨基部骨折2(ベネット、ローランド)
第10回	G.骨折の癒合日数 H.骨折の治癒経過,	第30回	5第5中手骨基部骨折
第11回	I.骨折の予後	第31回	【K.指骨の骨折】 1基節骨骨折
第12回	J骨折の治癒に影響を与える因子	第32回	2中節骨骨折
第13回	【G. 前腕骨骨幹部骨折】5.橈・尺両骨骨幹部骨折1	第33回	3末節骨骨折
第14回	5. 機・尺両骨骨幹部骨折2	第34回	復習(前腕骨骨幹部骨折・遠位端部骨折)
第15回	【H.前腕遠位端部骨折】1.橈骨遠位端部骨折(コーレス1)	第35回	復習(手根部骨折・指骨骨折)
第16回	1.橈骨遠位端部骨折(コーレス2)	第36回	復習(骨の損傷1)
第17回	1橈骨遠位端部骨折(スミス)	第37回	復習(骨の損傷2)
第18回	1.橈骨遠位端部骨折(バートン)	第38回	自習
第19回	定期試験	第39回	定期試験
第20回	解答・解説	第40回	解答・解説

授業時間外の学習

授業の役割として、「情報提供」と「確認の試験」を主としており、学生が持つ問題点や疑問点の解決・解説を内容のコンセプト としている。 時間外の学習では、毎回の授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」を反復する時間を個別でも うけることが望まれる。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および参考資料の内容を含む。

試験結果については定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学IV	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	佐々木 祐樹	配当年次	1	開講時期	通年
		授業形態	講義	単 位	5

授業概要

総論総説における筋損傷、腱損傷、神経損傷(p62-82)についての損傷状態について理解するほか、下肢全般の骨折の各論について理 論編(p245-292)実技編(p290-343)を用いて損傷の発生機序から治癒または後遺症においてまでを学ぶ。

到達目標

柔道整復学の筋損傷、腱損傷、神経損傷における総論および、下肢骨折について授業概要の範囲を説明することができる。

授業計画

O 4 710 111			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス A.筋の構造と機能	第21回	3大腿骨遠位端部骨折(顆部・内側側副靱帯裂離)
第2回	B.筋損傷の概説、C.筋損傷の分類	第22回	C.膝蓋骨骨折、実技編下腿骨骨幹部骨折
第3回	D.筋損傷の症状、E.治癒機序、F.予後	第23回	D.下腿骨骨折 1下腿骨近位端部骨折(脛骨顆部)
第4回	A.腱の構造と機能、B.腱の概説	第24回	1下腿骨近位端部骨折(顆間隆起・脛骨粗面・腓骨)
第5回	C.腱損傷の分類	第25回	2下腿骨骨幹部骨折(脛骨単独・脛腓両骨)
第6回	D.腱損傷の症状、E.治癒機序	第26回	実技編 下腿骨幹部骨折
第7回	A.末梢神経の構造と機能、B.末梢神経の概説	第27回	2下腿骨骨幹部骨折(腓骨骨幹部・下腿骨顆上)
第8回	C.末梢神経の分類	第28回	3下腿骨遠位端部骨折および足部の脱臼骨折
第9回	D.末梢神経損傷の症状、E.末梢神経損傷の治癒過程	第29回	3下腿骨遠位端部骨折および足部の脱臼骨折2
第10回	A.骨盤骨骨折 1.骨盤骨単独骨折	第30回	実技編 顆部骨折
第11回	2.骨盤輪骨折	第31回	E.足・足趾骨折
第12回	B.大腿骨骨折 1大腿部近位端部骨折(骨頭部・頸部)	第32回	1足根骨骨折(距骨骨折)
第13回	1大腿部近位端部骨折(頚部分類)	第33回	実技編 距骨体部骨折
第14回	実技編 頸部骨折	第34回	1足根骨骨折(踵骨骨折)
第15回	1大腿部近位端部骨折(転子部・転子下)	第35回	1足根骨骨折(舟状骨・立方骨骨折)
第16回	2大腿骨骨幹部骨折	第36回	2中足骨骨折、3趾骨骨折
第17回	実技編 大腿骨骨幹部骨折	第37回	実技編 中足骨骨折
第18回	3大腿骨遠位端部骨折 (顆上・遠位骨端線離開)	第38回	実技編 趾骨骨折
第19回	定期試験	第39回	定期試験
第20回	解説	第40回	解説

授業時間外の学習

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版 復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

全国柔道整

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学V①	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	2	開講時期	通年
		授業形態	講義	単 位	5

授業概要

頭部、胸郭および脊椎(頸椎、胸椎、腰椎)について解剖学的知識を前提として骨折・脱臼・軟部組織損傷それぞれについて 概要、分類、発生機序、症状、鑑別診断、転位、整復法、固定法、複療法、合併症について学習する。 それに伴い、柔道整復における適応疾患について見定め、適切な判断ができる能力を習得する。

到達目標

頭部や体幹の損傷の概念・病態を学習することにより、その症状を理解する。またこれにより起こりうる合併症や柔道整復における適応疾患について見定め、適切な判断ができるようにする。また、この範囲について国家試験の出題形式問わず、解答を導き出 せることが到達目標となる。

授業計画

24 214 111	—		
回数	授業計画・内容		授業計画・内容
第1回	頭蓋骨解剖		頸部の注意すべき疾患
第2回	頭蓋冠骨折		胸・背部の軟部組織損傷
第3回		第23回	試験
第4回	顔面頭蓋骨折	第24回	解説
第5回	脊椎解剖・外傷概要		
	頸椎骨折・脱臼		
	胸椎骨折・脱臼		
	腰椎骨折		
	腰椎脱臼		
	胸郭解剖		
	肋骨骨折		
	肋骨骨折 2		
	肋骨骨折 3		
	総復習		
	試験		
	解説		
	顎関節の解剖		
	顎関節脱臼		
	顎関節症		
第20回	胸郭出口症候群		

授業時間外の学習

- (1)解剖学の理解を深めること。教科書を見ながらイラストと照らし合わせながら骨模型を触り、3D解釈できるようにする。
- (2)総論の理解を深めること。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

毎回資料を配布する

全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学V②	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	大嶋 和成	配当年次	2	開講時期	通年
		授業形態	講義	単位	5

授業概要

柔道整復学に関与する症状・病態の理解を深めるための解剖学・生理学を含め、臨床的に理解することを目的とする。

到達目標

柔道整復学全般にわたる「総論としての軟部組織損傷・治療法」について理解し、体幹部の損傷各論を身につける。柔道整復学の 総論総説から、軟部組織損傷・治療法ついて理解し、関連する解剖学や生理学の知識を定着させ部位や臓器について理解できるよ うになる。

授業計画

10 / H	
回数	授業計画・内容
第1回	解剖学総論・骨格
第2回	骨格系
第3回	内臓
第4回	内臓・脈管
第5回	脈管
第6回	脈管・神経
第7回	神経
第8回	1学期試験
第9回	生理学総論・筋
第10回	神経・運動
第11回	内分泌・生殖
第12回	血液・循環
第13回	呼吸・体温
第14回	栄養と代謝・消化と吸収
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

毎回授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」をする時間を個別で設けることが望まれる。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

- 全国柔道整復学校協会監修 解剖学 (改定第2版)
- 全国柔道整復学校協会監修 生理学 (第4版)
- ·全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学·理論編 (第7版)

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復学VI	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗・塩﨑 由規	配当年次	3	開講時期	通年
		授業形態	講義	単 位	5

授業概要

教科書を基本とし、必要に応じて参考書等を用いながら柔道整復師が必要とする基礎的疾患の理解を深める。また基礎的疾患の理 解を得るために、柔道整復師として必要な病理学分野、リハビリテーション医学、整形外科学分野の知識を習得する。また柔道整 復師を取り巻く環境としての公衆衛生を学び、知識を習得する。

到達目標

昨今、柔道整復では跳躍した施術について問題視されており基礎的疾患の理解が柔道整復師にも求められている。本科目では基礎 となる病因について外傷とは全く異なることを注目し、柔道整復における適応疾患について見定めることが出来るようになる。柔 道整復学における正確性の向上のため、柔道整復術以外となる周辺知識について外傷以外の疾患を学び柔道整復術の業となる施術 について演繹できるようになる。

極業計画

汉未刊			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	柔道整復術の適応外となる疾病についての判断方法	第21回	リハビリテーション医学概論
第2回	骨癒合を遅延させる代謝障害について①	第22回	リハビリテーション医学の評価と診断
第3回	骨癒合を遅延させる代謝障害について②	第23回	リハビリテーション医学の基礎医学
第4回	骨癒合を遅延させる血液の循環障害	第24回	リハビリテーション医学の関連職種
第5回	骨癒合を遅延させる血液の細胞成分による障害	第25回	リハビリテーション医学の治療技術
第6回	全身所見にかかわる高血圧について	第26回	リハビリテーション医学の実際
第7回	骨折の治癒に関わる細胞と組織の適応	第27回	高齢者のリハビリテーション
第8回	骨折の一般外傷症状に含まれる炎症について	第28回	整形外科診察法
第9回	骨折の一般外傷症状に含まれる炎症のみきわめ	第29回	骨・関節の損傷
第10回	関節置換による後療法に注意すべき免疫異常	第30回	スポーツ整形外科
第11回	関節部後療法に注意すべき免疫異常のみきわめ	第31回	疾患別各論①
第12回	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別(頭頸部)	第32回	疾患別各論②
第13回	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別(胸部)	第33回	疾患別各論③
第14回	既往症としてとらえる先天性異常の成り立ち	第34回	疾患別各論④
第15回	施術適応について鑑別 病因・素因の視点から	第35回	身体別疾患各論①
第16回	施術整復師を取巻く保険制度や国民動向	第36回	身体別疾患各論②
第17回	施術にあたり注意すべき感染症や消毒について	第37回	身体別疾患各論③
第18回	施術所においての環境衛生	第38回	身体別疾患各論④
第19回	定期試験	第39回	定期試験
第20回	解答解説	第40回	解答解説

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに柔道整復師に必要な基礎的疾患の理解や機能解剖、国民の動向、公害の理解なども含め自宅で繰り 返し学習することを推奨する。また、学んだ内容を他人に指導することで理解を深める。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある病理学概論・衛生学・公衆衛生学・整形外科学・リハビリテーション医学および授業用プリントの内容を含む試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う。

試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版

全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 改訂第3版

全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学 改訂第6版

全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 改定第4版/整形外科学 改定第4版

担当教員の実務経験

科目名	外傷の保存療法	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	岩井 一歩	配当年次	3	開講時期	1学期
		授業形態	講義	単 位	1

授業概要

外傷における保存療法と観血療法の違いと特徴について学ぶ。

到達目標

授業内容と今まで学んできたカリキュラムを踏まえた上で、保存療法の限界点を自らで判断できるようにする。

授業計画

W 4 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	授業計画・内容
	保存療法のメリット
	保存療法のデメリット
第3回	観血療法のメリット
	観血療法のデメリット
第5回	Red Flagの判断
第6回	医療従事者との連携の図り方
第7回	まとめ
第8回	試験

授業時間外の学習

知識の定着のため、自学自習に励むこと。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。

試験配面はファバスの項目にめる理論欄・美技欄およい技業用ノリンドの内容を添くむ。 試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験の解答に疑義がある場合は柔道整復学理論編・実技編、授業用プリントのみを基準として申しでること。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第6版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所・整形外科病院等において、柔道整復師としての実務経験を有する。

科目名	臨床柔道整復学 I	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	塩﨑 由規	配当年次	1	開講時期	後期
		授業形態	講義	単 位	2

授業概要

柔道整復学理論編にある上肢・下肢・体幹の「機能解剖」の領域から外傷に加わる力について考察できるようにする。

到達目標

柔道整復学理論編における各部位別各論の冒頭にある機能解剖の領域について、骨・筋・関節等の運動生理学による静力学的負荷 および、動的外力の集積部位をを中心に、各論外傷の発生頻度・損傷が起こりやすい理由等について予測できるようになる。

授業計画

10 /K HI	
回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス
	痛みの基礎
第3回	骨の損傷
	関節の損傷
第5回	筋・腱の損傷
第6回	神経の損傷
第7回	まとめ①
第8回	診察
第9回	整復法(骨折・脱臼)
第10回	軟部組織損傷
第11回	固定法
第12回	まとめ②
第13回	後療法(手技療法)
第14回	後療法(運動療法・物理療法)
	指導管理
	外傷予防
第17回	まとめ③
第18回	総復習
第19回	定期試験

授業時間外の学習

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗・米山 博之	配当年次授業形態	1 講義	開講時期単位	通年 5

授業概要

筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。 具体的にはビジュアルとして筋骨格系を捉えながら骨の名称、筋肉の起始停止となるようなランドマーク、 筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。

1年時のプログラムとしてグループワークも取り入れ、クラス内のチームワーク形成を図る。 整復学理論編・付録より、頭部・体幹・上肢・下肢に至るまでの「機能と解剖」について行う。 尚、授業進行は「解剖学」の授業に追随して行う。

柔道

到達目標

①骨の描写が出来、名称を言えるようにする。 ②筋肉の描写が出来、名称を言えるようにする。 ③筋肉の名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え、筆記、口頭ともに完璧に答えらえるようにする。 「解剖 学」をもとに、柔道整復学理論・実技編の下肢の分野がら「骨盤部」「股関節」「大腿部」「膝関節部」「下腿部」「足関節部」 「解剖 「足・趾部」の機能と解剖および各部の損傷について判断できるようにする。

授業計画

	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション		頭部
第2回	骨について 肩甲骨・上腕骨	第21回	頭部体幹2
第3回		第22回	頭部体幹3
第4回	手骨	第23回	頭部体幹4
第5回		第24回	上肢1
第6回	骨の名称確認	第25回	上肢2
第7回	筋肉ついて 咀嚼筋、頚部の筋肉	第26回	上肢3
第8回	上肢帯につく筋肉 1	第27回	上肢4
第9回	上肢帯につく筋肉 2	第28回	上肢5
第10回	上腕の筋肉 1	第29回	上肢6
第11回	上腕の筋肉2	第30回	下肢1
第12回	前腕の筋肉 1	第31回	下肢2
第13回	前腕の筋肉 2	第32回	下肢3
第14回	手指の筋肉 1	第33回	下肢4
第15回	手指の筋肉 2	第34回	下肢5
	骨の名称 総復習	第35回	下肢6
第17回	上肢の筋肉 総復習	第36回	下肢7
第18回	上肢の筋肉 総復習	第37回	復習
第19回	上肢の筋肉 確認テスト	第38回	復習2

授業時間外の学習

筋・骨格系を理解するには大変な時間を要する。よって日々の復習を習慣づけて自己研鑽に努めていただきたい。また、グループ で協力し合いながら学習理解を深めていくチームワークの形成やコミュニケーション能力の向上にも重点をおき、進めていただき たい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席を満たない場合は不可とする。

前期では各section(課題提出 確認テスト)の点数合計が60点/100点以上、後期では定期試験の点数が60点/100点以上、合計120点 /200点以上を単位認定の下限とする。

において授業を行うが、コマ数の関係で資料全部に目を通すことができない。

よって授業外では国家試験勉強として自己で学習する必要がある。

使用テキスト

毎回資料を配布。

授業ではヒューマン・アナトミー・アトラスの3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。

医歯薬出版株式会社 全国柔道整復学校教会 監修 解剖学 改定第2版 柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版

全国

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	中神 太一	配当年次	1	開講時期	通年
122 3 数 頁		授業形態	講義	単 位	5

授業概要

筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。 具体的にはビジュアルとして筋骨格系を捉えながら骨の名称、筋肉の起始停止となるようなランドマーク、 筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。

また、1年時のプログラムとしてグループワークも取り入れ、クラス内のチームワーク形成を図る。

到達目標

- ①骨の描写が出来、名称を言えるようにする ②筋肉の描写、名称を言えるようにする
- ③筋肉の名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え完璧に答えらえるようにする(筆記、口頭ともに)

袋 坐 計 画

双来的	El .		
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	自己紹介 イントロダクション	第21回	上肢の筋肉 母指球筋 少指球筋
第2回	骨について 体幹の骨	第22回	上肢の筋肉 復習テスト1
第3回	骨盤の骨	第23回	上肢の筋肉 復習テスト2
第4回	下腿の骨	第24回	上肢の筋肉 復習テスト3
第5回	足の骨	第25回	上肢の筋肉 復習テスト4
第6回	骨の名称確認	第26回	上肢の筋肉 復習テスト5
第7回	筋肉ついて 骨盤につく筋肉	第27回	上肢の筋肉 復習テスト6
第8回	骨盤につく筋肉2	第28回	上肢の筋肉 復習テスト7
第9回	大腿の筋肉(伸筋)	第29回	下肢の筋肉 復習テスト1
第10回	大腿の筋肉(内転筋)	第30回	下肢の筋肉 復習テスト2
第11回	大腿の筋肉(屈筋)	第31回	下肢の筋肉 復習テスト3
第12回	下腿の筋肉(伸筋)	第32回	下肢の筋肉 復習テスト4
第13回	下腿の筋肉(屈筋)	第33回	下肢の筋肉 復習テスト5
第14回	下腿の筋肉(屈筋2)	第34回	下肢の筋肉 復習テスト6
第15回	足の筋肉	第35回	下肢の筋肉 復習テスト7
第16回	足の筋肉 2	第36回	全身の筋肉 総復習1
第17回	下肢の筋肉 総復習	第37回	全身の筋肉 口頭テスト
第18回	下肢の筋肉 総復習	第38回	全身の筋肉 口頭テスト2
第19回	下肢の筋肉 確認テスト		
第20回	上肢の筋肉 母指球筋 小指球筋		

授業時間外の学習

筋・骨格系を理解するには大変な時間を要する。よって日々の復習を習慣づけて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席を満たない場合は不可とする。

1年間を通して、各section (課題提出 確認テスト) の点数合計が120点/200点以上を単位認定ラインとする

使用テキスト

毎回資料を配布

授業では3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復学VI	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	3	開講時期	2学期
15 3 47 15	四个 心度	授業形態	講義	単 位	3

授業概要

柔道整復学における総論と他教科からみた鑑別法について比較し、疾病の特徴から的確な外傷の判断を評価することができる。 CBT・OSCEについては臨床柔道整復学™と連動し使用する。 柔道整復師の臨床上想定される鑑別から、一般臨床・外科学概論に含まれる、業務範囲外での対応方法についても問う。

到達目標

柔道整復学総論における各部位の損傷について、静力学的負荷が運動学分野のベクトル・関節トルク、立位の抗重力筋・歩行との 関連性を理解し、運動生理学的な負荷が損傷にいたる過程を説明できるようになる。さらに病理学分野や、一般臨床分野にくわえ 外科学の全身疾患における症状から、発生機序のある外傷について明確な鑑別を行い、外傷における的確な評価ができるようにな る。下記授業計画については、個別での進捗であるためシラバスについては回ごとに内容を定めない。授業開始前のガイダンスに て説明の機会を設ける。

授業計画

LA A HI			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	実技演習・口頭試問 1	第21回	実技演習・口頭試問19
第2回	実技演習・口頭試問 2	第22回	実技演習・口頭試問20
第3回	実技演習・口頭試問3	第23回	期末試験2
第4回	実技演習・口頭試問4	第24回	復習・解説
第5回	実技演習・口頭試問 5		
第6回	実技演習・口頭試問 6		
第7回	実技演習・口頭試問 7		
第8回	実技演習・口頭試問8		
第9回	実技演習・口頭試問 9		
第10回	実技演習・口頭試問10		
第11回	実技演習・口頭試問11		
第12回	実技演習・口頭試問12		
第13回	実技演習・口頭試問13		
第14回	実技演習・口頭試問14		
第15回	期末試験		
第16回	復習・解説		
第17回	実技演習・口頭試問15		
第18回	実技演習・口頭試問16		
第19回	実技演習・口頭試問17		
第20回	実技演習・口頭試問18		

授業時間外の学習

1学期よりCBTによる事前学習の完了を必須とする。授業に入っても事前学習の内容が基盤となり、知識のみならず思考性や患者対 応力(敬語・コミュニケーション能力)が基礎となる。ことから、授業開始時点でも事前学習とCBTの完成を優先する。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として出席を含めた総合評価を行う。授業の形状から Section1~4を試験実施順に合否を判断し、定期試験前までに「section4までの合格」と、「認定実技試験の合格」をもって総合評価 とし「定期試験受験資格」を有すことになる。

使用テキスト

当校CBT・OSCE教本

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学 理論編 改訂第6版

柔道整復学 実技編 改訂第6版 他各種

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復学VII	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木忠慶	配当年次	3	開講時期	2学期
世当钦良	即不心度	授業形態	講義	単 位	3

授業概要

柔道整復理論編の各論下肢について臨床判断、患者安全管理および患者に対するコミュニケーションが実施できるようになる。 CBT・OSCEについては臨床柔道整復学Ⅶと連動し使用する。柔道整復師の臨床上想定される鑑別から、リハビリテーション医学・ 整形外科に含まれる、業務範囲外での対応方法についても問う。

到達目標

柔道整復理論編の各論下肢の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、施術所内や居宅のリスク発見・リスク管理、面談法と施 術時コミュニケーション技法にくわえ施術中の問題発生時の対応、一般的な疼痛スケールの対応に対し臨床適応でるようになる。 下記授業計画については、個別での進捗であるためシラバスについては回ごとに内容を定めない。授業開始前のガイダンスにて説 明の機会を設ける。

授業計画

从水川			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス	第21回	実技演習・口頭試問17
第2回	実技演習・口頭試問1	第22回	実技演習・口頭試問18
第3回	実技演習・口頭試問2	第23回	実技演習・口頭試問19
第4回	実技演習・口頭試問3	第24回	実技演習・口頭試問20
第5回	実技演習・口頭試問4		
第6回	実技演習・口頭試問 5		
第7回	実技演習・口頭試問 6		
第8回	実技演習・口頭試問7		
第9回	実技演習・口頭試問8		
第10回	実技演習・口頭試問 9		
第11回	実技演習・口頭試問10		
	実技演習・口頭試問11		
第13回	実技演習・口頭試問12		
	実技演習・口頭試問13		
第15回	期末試験		
	解説・まとめ		
	実技演習・口頭試問14		
	実技演習・口頭試問15		
	実技演習・口頭試問16		
第20回	実技演習・口頭試問17		

授業時間外の学習

1学期よりCBTによる事前学習の完了を必須とする。授業に入っても事前学習の内容が基盤となり、知識のみならず思考性や患者対 応力(敬語・コミュニケーション能力)が基礎となる。ことから、授業開始時点でも事前学習とCBTの完成を優先する。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として出席を含めた総合評価を行う。授業の形状から Section1~4を試験実施順に合否を判断し、定期試験前までに「section4までの合格」と、「認定実技試験の合格」をもって総合評価 とし「定期試験受験資格」を有すことになる。

使用テキスト

当校CBT・OSCE教本

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学 理論編 改訂第6版

柔道整復学 実技編 改訂第6版 他各種

担当教員の実務経験

科目名	物理療法機器等の取り扱い	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	吉成 有紗	配当年次	1	開講時期	後期
担当钦良		授業形態	講義	単 位	1

授業概要

年間出席の2/3以上の出席と定期試験の年間平均60点以上を成績の下限として、出席を含めた総合評価を行う。試験については授業 内に実施する。

到達目標

物理療法の患者体位や肢位、禁忌、刺激強度等の安全対策をふまえて、電気療法、伝導熱療法、返還熱療法、光線療法、寒冷療 法、牽引法等についての効果および使用方法が説明できるようになる。

授業計画

100 M H	
回数	授業計画・内容
	治療院での安全対策
	物理療法とは
第3回	電気療法と伝導熱療法
第4回	光線療法
	寒冷療法と牽引療法
	現場での注意点や実例 その1
	現場での注意点や実例 その2
第8回	定期試験

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに自宅で繰り返し学習すること、また教科担当に不明点および理解に至らない点は質問することを推 奨する。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 試験範囲はシラバスの項目にある柔道整復学理論編、授業用プリントの内容を含む。 試験は穴埋め式とし、また授業内でのレポート課題等の提出を含み評価する。

試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

担当教員の実務経験

科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	鈴木 忠慶	配当年次	3	開講時期	3学期
世当秋貝	四个 心度	授業形態	講義	単位	2

授業概要

柔道整復術の施術の適応判断と必要性について理解することができる。

到達目標

柔道整復術の施術の適応判断と必要性について、施術適応範囲内にある画像読影と撮影法などや接骨院の日常診療で比較的遭遇機 会の多い外傷、疾患や鑑別について説明できるようになる。

授業計画

24 714 111	
回数	授業計画・内容
第1回	画像読影と撮影法 X線
第2回	画像読影と撮影法 X線
第3回	画僧読影と撮影法 X線
第4回	画像読影 MRI・CT
第5回	画像読影と撮影法 超音波
第6回	画像読影と撮影法 超音波
第7回	画像読影と撮影法 超音波
第8回	臨床的判断 足関節疾患
第9回	臨床的判断 股関節疾患
第10回	臨床的判断 膝関節疾患
第11回	臨床的判断 骨粗鬆症と脊椎圧迫骨折
第12回	臨床的判断 腰椎分離症
第13回	臨床的判断 重症度の高い疾患・合併症
第14回	復習
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

授業内で講義した内容とともに自宅で繰り返し学習すること、また教科担当に不明点および理解に至らない点は質問することを推 奨する。

成績評価

試験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容をふくむ。試験はいずれも25題以上の四択国家試験 方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。 試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

使用テキスト

担当教員の実務経験

科目名	臨床実習事前指導	対象学科	柔道整復学科		
担当教員	塩﨑 由規・吉成 有紗	配当年次	1	開講時期	後期
1世 = 4 (大) 具	→血門 ロバ ロル 1 円 1 円 1 円 1 円 1 円 1 円 1 円 1 円 1 円 1	授業形態	講義	単位	1

授業概要

柔道整復の基礎的な技術や知識を身につけ実行できるようになることを目的とする。また、実習先での立ち振る舞いについて学習 し習得することを目的とする。

到達目標

臨床実習において施術の介助や接骨院での立ち振る舞いが身についているかを評価する。

授業計画

O4 >14 K.	
回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・実習の手引き
第2回	事前学習の説明
第3回	実習前に必要な知識の確認 1
第4回	実習前に必要な知識の確認2
第5回	実習前に必要な知識の確認3
第6回	実習前に必要な知識の確認4
第7回	実習前に必要な知識の確認 5
第8回	実習前に必要な知識の確認 6
第9回	実習先の選択と企業学習、実習内容の確認
第10回	学生プロフィールの作成 1
第11回	学生プロフィールの作成 2
第12回	学生プロフィールの作成 3
第13回	実習の評価について(ループリック評価)
第14回	実習の評価について
第15回	実習ノートの書き方1
第16回	実習ノートの書き方2
第17回	実習事前確認のまとめ
第18回	定期試験
第19回	解答解説

授業時間外の学習

実習先はもちろん接骨院について、積極的に自ら調べ知ろうとする行動を心がける。また、実習先では1年次に習得した実技の技 術や知識について確認されてもいいように自己学習に励むことを推奨する。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格とする。

武験範囲は柔道整復学理論編、解剖学、生理学および授業用プリントを含む。 成績評価は柔道整復学理論編、解剖学、生理学および課題の提出を含み総合的に評価する。

試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単位認定の下限とする。

学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場合最終評価は不可とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版

全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復実技1	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	佐々木 祐樹	配当年次	1	開講時期	通年
拉马秋县	KT / VIA MANA	授業形態	実技	単位	3

授業概要

教科書に合わせて競技者に対する外傷予防テーピングの理解、認定実技審査で問われるテーピングの内容の習得を行う。関節、筋 についての構造を把握した上でより効果的なテーピングを施すことができるよう技術の向上を図る。教科書のみならず、参考書を 引用し様々なニーズに対応できるテーピング法を学ぶ。

到達目標

競技者の外傷予防の教科書を中心にスポーツテーピングの方法、実際について理解できるようにする。テーピングの効果、効用を 理解し、競技や状況に応じて適切なテーピングを施すことができるようにする。

授業計画

以来时	Щ		
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス、テーピングとは	第21回	前期おさらい
第2回	テープのカット方法	第22回	深部腱反射①
第3回	アンダーラップの取り扱い	第23回	深部腱反射②
第4回	足関節の構造について(触診・機能解剖)	第24回	section2実技 効果測定
第5回	足関節捻挫予防のテーピング方法(アンダーラップからホースシューまで)	第25回	section2実技 効果測定
第6回	足関節捻挫予防のテーピング方法(サーキュラーからフィギュアエイトまで)	第26回	section3実技 効果測定
第7回	足関節捻挫予防のテーピング方法①	第27回	section3実技 効果測定
第8回	足関節捻挫予防のテーピング方法②	第28回	下腿部・足部の構造について(触診・機能解剖)
第9回	足関節捻挫予防のテーピング方法③	第29回	下腿三頭筋および足底部のサポートテープ
第10回	足関節捻挫予防のテーピング方法④	第30回	大腿部の構造について(触診・機能解剖)
第11回	足関節捻挫予防のテーピング方法⑤	第31回	大腿四頭筋およびハムストリングスのサポートテープ
第12回	膝関節の構造について(触診・機能解剖)	第32回	section4実技 効果測定
第13回	膝内側側副靱帯損傷に対するテーピング方法	第33回	section4実技 効果測定
第14回	足関節捻挫予防テーピングの応用①	第34回	section5実技 効果測定
第15回	足関節捻挫予防テーピングの応用②	第35回	section5実技 効果測定
第16回	section1実技 効果測定	第36回	種々のテーピング方法①
第17回	section1実技 効果測定	第37回	種々のテーピング方法②
第18回	section1実技 効果測定	第38回	種々のテーピング方法③
第19回	section1実技 効果測定	第39回	EXTRAsection1 効果測定
第20回	EXTRAsection1 効果測定	第40回	EXTRAsection2 効果測定

授業時間外の学習

授業で扱うテーピング法は全て教科書および配布資料に準ずる。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努め ていただきたい。

成績評価

各sectionの合計点から前期section1、後期section2~5を合算し定期試験結果とする。各定期試験の結果の平均が60点以上で合格とする。成績評価は各sectionの効果測定期間でのみ行う。

前期、後期で定められたEXTRAsectionでは、それまでに受けたすべての不合格sectionについて試験を受けることができる。 EXTRAsectionでは合格点に達したsectionまたは、その授業期間中に欠席が続いたsectionについては受験できない。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 競技者の外傷予防 包帯固定学 改訂第2版

担当教員の実務経験

科目名	基礎柔道整復実技 I	対象学科	柔道整復為	学科	
担当教員	⇔ ★ 中塵	配当年次	1	開講時期	通年
担目教員	鈴木 忠慶	授業形態	実技	単 位	3

授業概要

包帯による関節固定の基礎および、関節可動域測定を実施することができるようになる。

到達目標

基礎包帯固定学による固定の目的と意義を踏まえて、基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法のほか、三角巾、固定材料の製作・ 固定および、関節可動域測定について行うことができる。

授業計画

及未明			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス	第21回	関節可動域測定法・各種身体測定(四肢)
第2回	包帯取り扱いの基礎・包帯の各種名称	第22回	関節可動域測定法・各種身体測定(四肢)復習
第3回	巻軸帯の巻き方と注意事項	第23回	関節可動域測定法・各種身体測定(四肢)復習2
第4回	基本包帯法の理解	第24回	包帯と三角巾の利用方法
第5回	基本包帯法の実践	第25回	厚紙副子固定 手関節と足関節
第6回	基本包带法試技	第26回	厚紙副子固定 手関節と足関節 復習
第7回	基本包带法試技2	第27回	厚紙副子固定 手関節と足関節 復習2
第8回	基本包带法試技3 section1	第28回	スダレ副子と厚紙副子固定 手指関節
第9回	基本包带法試技4 section1	第29回	スダレ副子と厚紙副子固定 手指関節 復習
第10回	冠名包帯法の理解	第30回	アルミ副子固定 手指関節
第11回	冠名包帯法の実践	第31回	アルミ副子固定 手指関節 2
第12回	冠名包带法試技	第32回	効果測定1 section3
第13回	冠名包带法試技2	第33回	効果測定2 section3
第14回	冠名包带法試技3 section2	第34回	効果測定3 section3
第15回	冠名包带法試技4 section2	第35回	効果測定4 section3
第16回	冠名包带法試技5 section2	第36回	効果測定5 section3
第17回	三角巾の利用方法	第37回	効果測定6 section3
第18回	固定材料の理解	第38回	効果測定7 section3
	総復習 EXTRAsection	第39回	総復習 EXTRAsection
第20回	総復習 EXTRAsection	第40回	総復習 EXTRAsection

授業時間外の学習

sectionにおける実技試験から定期試験の得点となることから、 sectionの試験発表後から実技室の使用を率先していただき、 重ねてください。また各sectionは段階的に試験が高度になっていきます。 を重ねて、絶えず自身の技術として保っていくように努力を続けてください。

練習を 実技の復習

成績評価

基本包帯法では制限時間を設け各種関節の複数の基本包帯法から出題されます。Section1 (50点) 冠名包帯法では制限時間を設け各冠名包帯から左右を指定し出題されます。section2 (50点)

関節可動域測定法・各種身体測定の各種試技のほか、厚紙副子またはスダレ副子による固定包を左右で指定し出題されます Section3(関節可動域測定法・各種身体測定の各種試技50点、厚紙副子またはスダレ副子による固定法50点)

使用テキスト

柔道整復学校協会 監修 包帯固定学 改定第2版

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復実技1	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	米山 博之	配当年次	2	開講時期	通年
		授業形態	実技	単 位	2

授業概要

1年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの診察法、整復法、検査 法などの修得を目指す。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。特に診察法や固定法を基 とした実技を行う。

到達目標

柔道整復理論編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、検査および判断力・外傷評価・施術法等臨床適応ができるようになる。

授業計画

从木川			
	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	授業説明(診察の手順・他)	第21回	足関節外側靭帯損傷(診察・検査)反復練習
第2回	鎖骨骨折(診察・整復)反復練習	第22回	大腿四頭筋打撲(診察・検査)反復練習
第3回	上腕骨外科頚外転型骨折(診察・整復)反復練習	第23回	臨床現場実技 2 (拇指MP関節・アルフェンス)
第4回	コーレス骨折(診察・整復)反復練習	第24回	臨床現場実技3(マレット指・釦穴・アルフェンス)
第5回	肩鎖関節上方脱臼(診察・整復)反復練習	第25回	臨床現場実技4 (母趾MP関節・アルフェンス)
第6回	肩関節烏口下脱臼(診察・整復)	第26回	臨床現場実技 5 (第 4 CM関節・アルフェンス)
第7回	肘関節後方脱臼(診察・整復)反復練習	第27回	ギブス固定
第8回	肘内障(診察・検査)反復練習	第28回	実技復習
第9回	肩腱板損傷(診察・検査)反復練習	第29回	中期試験1
第10回	上腕二頭筋長頭腱損傷(診察・検査)反復練習	第30回	中期試験2
第11回	ハムストリングス損傷(診察・検査)反復練習	第31回	中期試験3
第12回	実技復習	第32回	再試験
第13回	前期試験1	第33回	臨床現場実技6 (二分靭帯テープ・厚紙)
	前期試験2	第34回	臨床現場実技7 (腱交叉・クラメル・アルミ)
第15回	前期試験3	第35回	臨床現場実技8 (踵部打撲・テープ)
第16回	再試験	第36回	臨床現場実技 9 (厚紙副子)
第17回	膝関節側副靭帯損傷(診察・検査)反復練習	第37回	実技復習
第18回	膝関節十字靭帯損傷(診察・検査)反復練習	第38回	後期試験1
第19回	膝関節半月板損傷(診察・検査)反復練習	第39回	後期試験2
第20回	下腿三頭筋損傷(診察・検査)反復練習	第40回	再試験

授業時間外の学習

授業内容は配付資料に従って行なう。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 定期試験の年間平均60点以上で単位認定とする。

使用テキスト

配付資料

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復実技2	対象学科	柔道整復学	学科	
担当教員	岩井 一歩	配当年次	2	開講時期	1学期
担目教員	岩井 一歩	授業形態	実技	単位	2

授業概要

1年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、下肢に起きる骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの診察法、整復法、検査法、固定法などの修得を目指す。内容は3年時に行う実技認定試験を基本とする。

到達目標

柔道整復理論にもとづいて下肢の臨床的な固定法・後療法・鑑別法・検査法を実施することができる。下肢全般の固定法・後療法 等の効果説明と、鑑別法・検査法の構成・施行順序等について解釈し施行できるようになる。

授業計画

双来的			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	授業説明	第21回	検査法 膝関節側副靱帯損傷2
第2回	硬性素材の使い方	第22回	検査法 膝関節前十字靱帯損傷
第3回	硬性素材の使い方2	第23回	検査法 膝関節前十字靱帯損傷2
第4回	硬性素材の使い方3	第24回	検査法 膝関節前十字靱帯損傷3
第5回	硬性素材の使い方4	第25回	検査法 膝関節半月板損傷
第6回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第26回	検査法 膝関節半月板損傷2
第7回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第27回	硬性素材の使い方の応用
第8回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第28回	硬性素材の使い方の応用2
第9回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第29回	まとめ
第10回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第30回	定期試験
第11回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第31回	定期試験2
第12回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第32回	試験解説
第13回	足関節から下腿にかけて起きる損傷の固定と検査法	第33回	足部から足趾にかけて起きる疾患の鑑別
第14回	定期試験	第34回	足部から足趾にかけて起きる疾患の鑑別2
第15回	定期試験2	第35回	足部から足趾にかけて起きる疾患への固定
第16回	試験解説3	第36回	足部から足趾にかけて起きる疾患への固定2
第17回	大腿四頭筋打撲(診察検査法)	第37回	足部から足趾にかけて起きる疾患への固定3
第18回	検査法 ハムストリング損傷 (肉ばなれ)	第38回	定期試験
第19回	大腿部の軟部組織損傷への固定法	第39回	定期試験2
第20回	検査法 膝関節側副靱帯損傷	第40回	解説

授業時間外の学習

授業内容に基づき、反復練習を行い技術の習得に励むこと。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席が原則。 定期試験の年間平均60点以上で単位認定とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修

南江堂 柔道整復学 理論編 改訂第7版

南江堂 柔道整復学 実技編 改訂第2版 配付資料

担当教員の実務経験

施術所・整形外科病院において、柔道整復師としての実務経験を有する。

科目名	臨床柔道整復実技3	対象学科		柔道整復学科	
担当教員	岩井 一歩	配当年次	3	開講時期	通年
世当飲貝	石 开	授業形態	実技	単 位	2

授業概要

柔道整復理論と一般臨床の知識にもとづいて各部位の臨床的な固定法・後療法・鑑別法・検査法を実施することができる。

到達目標

柔道整復理論・一般臨床にもとづいた知識で業務範囲の適応を判断し、各部位の臨床的な固定法・後療法・鑑別法・検査法を実施 し、患者さんに対し適切な対応のためにできることを到達目標とする。

授業計画

汉未刊			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション	第21回	膝関節半月板損傷診察及び整復法
第2回	総論	第22回	下腿三頭筋損傷診察及び整復法
第3回	総論	第23回	定期試験
第4回	頭蓋・頸椎に起きる損傷	第24回	解説
第5回	脊椎の軟部組織損傷	第25回	
第6回	体幹に起きる損傷	第26回	
第7回	肩関節周囲に起きる骨折・脱臼	第27回	
第8回	肩関節の軟部組織損傷	第28回	
第9回	上腕骨~肘にかけての骨折・脱臼	第29回	
第10回	手関節から手指部に起きる損傷	第30回	
第11回	骨盤骨骨折	第31回	
第12回	股関節脱臼	第32回	
第13回	股関節部の軟部組織損傷	第33回	
第14回	大腿骨遠位部骨折	第34回	
第15回	膝部の脱臼	第35回	
第16回	膝関節部の軟部組織損傷	第36回	
第17回	下腿部の軟部組織損傷	第37回	
第18回	下腿骨遠位部骨折	第38回	
第19回	足根部の軟部組織損傷	第39回	
第20回	足根部の軟部組織損傷	第40回	

授業時間外の学習

授業内容は復習が行いやすいように基本教科書に準ずる。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていた だきたい。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席が原則。 定期試験の年間平均60点以上で単位認定とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学 理論編 改訂第6版 柔道整復学 実技編 改訂第2版

担当教員の実務経験

施術所・整形外科病院において、柔道整復師としての実務経験を有する。

科目名	臨床柔道整復実技4	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	米山 博之・三野 勝大	配当年次	3	開講時期	通年
担ヨ教貝	木山 時心・二野 勝入	授業形態	実技	単位	2

授業概要

1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの診察法、整復法、検査法などの修存を目指す。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。特に診察法や整 復法を基とした実技を行う。

到達目標

柔道整復理論編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、検査および判断力・外傷評価・施術法等臨床適応ができるよ うになる。

授業計画

从不用			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	授業説明	第21回	(復習5)膝十字・膝半月・下腿三頭筋損傷(診察検
第2回	鎖骨骨折(診察・整復)	第22回	(復習6)足外側靭帯損傷(診察検査)他
第3回	上腕骨外科頚外転型骨折(診察・整復)	第23回	(総復習1)全種目・リハーサル準備
第4回	コーレス骨折(診察・整復)	第24回	(総復習2)全種目・リハーサル準備
第5回	肩鎖関節上方脱臼(診察・整復)	第25回	(総復習3)全種目・リハーサル準備
第6回	肩関節鳥口下脱臼(診察・整復)	第26回	リハーサル
第7回	肘関節後方脱臼(診察・整復)	第27回	(総復習4)全種目・本番準備
第8回	肘内障(診察・検査)	第28回	臨床現場用の実技 1
	肩腱板損傷(診察・検査)	第29回	臨床現場用の実技 2
第10回	上腕二頭筋長頭腱損傷(診察・検査)	第30回	臨床現場用の実技3
第11回	ハムストリングス損傷(診察・検査)	第31回	定期試験
>1·	膝関節側副靭帯損傷(診察・検査)	第32回	解答解説
	膝関節十字靭帯損傷(診察・検査)	第33回	実技演習 1
	膝関節半月板損傷(診察・検査)	第34回	実技演習 2
第15回	下腿三頭筋損傷(診察・検査)	第35回	実技演習 3
第16回	足関節外側靭帯損傷(診察・検査)	第36回	実技演習 4
第17回	(復習1)鎖骨F・外科頚F・コーレスF(診察整復)	第37回	実技演習 5
第18回	(復習2)肩鎖D・肩D・肘D診察整復	第38回	実技演習 6
第19回	(復習3)肘内障・腱板・長頭腱損傷(診察検査)	第39回	実技演習 7
第20回	(復習4)ハム・大腿四頭筋・膝側副靭帯損傷(診察	第40回	実技演習 8

授業時間外の学習

授業内容は配付資料に従って行なう。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 前期試験は認定実技審査リハーサルでの成績でもって評価する。

中期試験は実技に関する試験でもって評価する。定期試験の年間平均60点以上で単位認

定とする。

使用テキスト

配付資料

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復実技5	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	米山 博之・三野 勝大	配当年次	3	開講時期	通年
122 3 数 頁		授業形態	実技	単 位	2

授業概要

1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する固定法などの修得を目指す。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。特に診察法や整復法を基とした実技を行う。

到達目標

柔道整復理論編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、固定法など臨床適応ができるようになる。

授業計画

24 214 111			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ミッデルドルフ三角副子作成	第21回	(復習5)足フィギア・アキレス腱断裂・足厚紙(固
第2回	鎖骨骨折(八字包帯)・PIP関節背側脱臼(アルミ)	第22回	(総復習1)全種目・リハーサル準備
第3回	上腕骨骨幹部骨折(ミッデルドルフ三角副子)固定	第23回	(総復習2)全種目・リハーサル準備
第4回	コーレス骨折(クラーメル・三角巾)固定	第24回	(総復習3)全種目・リハーサル準備
第5回	肩鎖関節上方脱臼(テープ・三角巾)固定	第25回	(総復習4)全種目・リハーサル準備
第6回	肩関節前方脱臼(局所副子・三角巾)固定	第26回	リハーサル
第7回	肘関節後方脱臼(クラーメル・三角巾)固定	第27回	(総復習5)全種目・本番準備
第8回	肋骨骨折(さらし・厚紙副子)固定	第28回	臨床現場用の実技 1
第9回	第5中手骨頸部骨折(アルミ副子)固定	第29回	臨床現場用の実技2
第10回	下腿骨骨幹部骨折(クラーメル)固定	第30回	臨床現場用の実技3
第11回	大腿四頭筋打撲(診察と検査)	第31回	定期試験
第12回	膝関節内側靭帯損傷(Xサポートテープ)固定	第32回	解答解説
第13回	足関節外側靭帯損傷(バスケットウエーブテープ)固	第33回	実技演習 1
第14回	足関節外側靭帯損傷(フィギアエイトテープ)固定	第34回	実技演習 2
第15回	アキレス腱断裂(クラーメル副子)固定	第35回	実技演習 3
第16回	足関節外側靭帯損傷(厚紙副子)固定	第36回	実技演習 4
第17回	(復習1)鎖骨F・PIPD・上腕骨F(固定)	第37回	実技演習 5
第18回	(復習2)コーレスF・肩鎖D・肩関節D(固定)	第38回	実技演習 6
第19回	(復習3)肘関節D・肋骨F・ボクサーF(固定)	第39回	実技演習 7
第20回	(復習4)下腿骨F・膝Xテープ・足バスケ(固定)	第40回	実技演習 8

授業時間外の学習

授業内容は配付資料に従って行なう。よって、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。 前期試験は認定実技審査リハーサルでの成績でもって評価する。

中期試験は実技に関する試験でもって評価する。定期試験は年間平均60点以上で単位認定

使用テキスト

配付資料

とする。

担当教員の実務経験

科目名	臨床柔道整復実技6	対象学科	柔道整復学	学科	
担当教員	佐々木 祐樹/大嶋 和成/塩﨑 由規	大嶋 和成/炬嵫 中相 配当年次 3	3	開講時期	通年
15日 47. 貝	佐々木 柏樹/ 入嶋 和放/ 塩﨑 田規	授業形態	実技	単 位	2

授業概要

解剖学・運動学的専門知識を深め、臨床において疾患の病態を把握認識し簡便に一般的用語に置き換え示すことができる。

到達目標

柔道整復施術適応疾患の鑑別・病態把握の評価および治療法の決定に至る確定診断能力の基盤ろして解剖学・運動学を臨床に則し て説明できるようになる。

授業計画

回数 授業計画・内容 回数 授業計画・内容 第1回 ガイダンス 第21回 消化器系② 第22回 運動器系(身体運動の表し方) 第22回 呼吸器系① 第3回 運動器系(骨・関節・骨格筋) 第23回 呼吸器系② 第4回 運動器系(神経・反射) 第25回 泌尿器系② 第5回 運動器系(上肢の関節と筋 ①) 第25回 泌尿器系② 第6回 運動器系(上肢の関節と筋 ②) 第26回 生殖器系② 第28回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第27回 生殖器系② 第38回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 成党器系② 第31回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第31回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第31回 運動器系② 第31回 運動器系② 第31回 運動器系② 第31回 運動器系② 第31回 定期試験 第31回 定期試験 第31回 定期試験 第31回 定期試験 第31回 定期試験 第31回 定期試験 第34回 脈管系③ 第34回 脈管系③ 第34回 脈管系③ 第35回 脈管系② 第36回 脈管系③ 第37回 神経系① 第37回 神経系① 第38回 神経系② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③ 第20回 消化器系③ 第40回 まとめ・復習	从不用				
第2回 運動器系(身体運動の表し方) 第22回 呼吸器系① 第3回 運動器系(骨・関節・骨格筋) 第23回 呼吸器系② 第4回 運動器系(神経・反射) 第24回 泌尿器系② 第5回 運動器系(上肢の関節と筋 ①) 第25回 生殖器系② 第6回 運動器系(上肢の関節と筋 ①) 第27回 生殖器系② 第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 内分泌系 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ③) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 変勢評価法 第31回 定期試験解説 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動発達 第33回 体表解剖 第15回 運動影解 第36回 脈管系② 第15回 定期試験解説 第36回 脈管系② 第17回 概論② 第36回 脈管系② 第17回 概論③ 第38回 <td <="" rowspan="2" td=""><td>回数</td><td>授業計画・内容</td><td>回数</td><td>授業計画・内容</td></td>	<td>回数</td> <td>授業計画・内容</td> <td>回数</td> <td>授業計画・内容</td>	回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第3回 運動器系(骨・関節・骨格筋) 第23回 呼吸器系② 第4回 運動器系(中経・反射) 第24回 泌尿器系① 第5回 運動器系(上肢の関節と筋 ②) 第26回 生殖器系① 第7回 運動器系(下肢の関節と筋 ③) 第27回 生殖器系② 第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 内分泌系 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験解説 第12回 歩行評価法 第33回 定期試験解説 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験解説 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系② 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論② 第39回 神経系③		第1回	ガイダンス	第21回	消化器系②
第4回 運動器系(神経・反射) 第24回 泌尿器系① 第5回 運動器系(上肢の関節と筋 ①) 第25回 泌尿器系② 第6回 運動器系(上肢の関節と筋 ②) 第26回 生殖器系① 第7回 運動器系(下肢の関節と筋 ①) 第27回 生殖器系② 第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第29回 感覚器系① 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 安勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験解説 第36回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第2回		第22回	呼吸器系①	
第5回 運動器系(上肢の関節と筋 ②) 第25回 泌尿器系② 第6回 運動器系(上肢の関節と筋 ②) 第26回 生殖器系① 第7回 運動器系(下肢の関節と筋 ①) 第27回 生殖器系② 第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 内分泌系 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系②			第23回		
第6回 運動器系(上肢の関節と筋 ②) 第26回 生殖器系① 第7回 運動器系(下肢の関節と筋 ③) 第27回 生殖器系② 第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 内分泌系 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第4回	運動器系(神経・反射)	第24回	泌尿器系①	
第7回 運動器系(下肢の関節と筋 ①) 第27回 生殖器系② 第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 内分泌系 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動学資 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第25回		
第8回 運動器系(下肢の関節と筋 ②) 第28回 内分泌系 第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動学達 第34回 脈管系① 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第6回	運動器系(上肢の関節と筋 ②)	第26回	生殖器系①	
第9回 運動器系(体幹の関節と筋 ①) 第29回 感覚器系① 第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動発達 第33回 体表解剖 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第27回		
第10回 運動器系(体幹の関節と筋 ②) 第30回 感覚器系② 第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動発達 第33回 体表解剖 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第8回		第28回		
第11回 姿勢評価法 第31回 定期試験 第12回 步行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動発達 第33回 体表解剖 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第29回	感覚器系①	
第12回 歩行評価法 第32回 定期試験解説 第13回 運動発達 第33回 体表解剖 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第30回		
第13回 運動発達 第33回 体表解剖 第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第11回	姿勢評価法	第31回	定期試験	
第14回 運動学習 第34回 脈管系① 第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第12回	歩行評価法	第32回	定期試験解説	
第15回 定期試験 第35回 脈管系② 第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③	第13回	運動発達	第33回	体表解剖	
第16回 定期試験解説 第36回 脈管系③ 第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第34回		
第17回 概論① 第37回 神経系① 第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第35回		
第18回 概論② 第38回 神経系② 第19回 概論③ 第39回 神経系③			第36回		
第19回 概論③ 第39回 神経系③					
第20回 消化器系①					
	第20回	消化器系①	第40回	まとめ・復習	

授業時間外の学習

毎回授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」をする時間を個別で設けることが望まれる。

成績評価

各学期の2/3以上の出席をもって定期試験受験資格とする。

式験範囲はシラバスの項目にある理論編・実技編および授業用プリントの内容を含む。

試験はいずれも25題以上の四択国家試験方式での出題を行う(試験問題には画像および長文問題を含む)。

試験結果については各学期の定期試験の平均が6割を上回ることを単 学生便覧・細則に示す事由のほか、各学期の定期試験が未受験の場

位認定の下限とする。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修 解剖学(改定第2版) 全国柔道整復学校協会監修 運動学(改定第3版)

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編(第7版)

担当教員の実務経験

科目名	高齢者外傷予防	対象学科	柔道整復營	学科	
担当教員	鈴木忠慶	配当年次	2	開講時期	1学期
1世 3 秋 貝	却不忍慶	授業形態	実技	単位	

授業概要

高齢者の転倒予防を中心に身体感と身体機能の維持・増進について理解できる。

到達目標

機能訓練指導法についてディスカッションを行い柔道整復師と介護保険、発達と老化の理解、機能訓練指導員と機能訓練、機能訓練で提供する運動と要点及び注意点などについて説明し、転倒・骨折・筋力維持・関節拘縮に対しての機能訓練指導ができるようになる。

授業計画

以未用	
	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・発達と老化の理解
第2回	機能訓練指導員と機能訓練
第3回	認知症の理解
第4回	柔道整復師と介護保険と介護保険制度
第5回	介護課程とICF
第6回	高齢者の生理学
第7回	ロコモティブシンドローム
第8回	高齡者自立支援
第9回	機能訓練のアセスメント
第10回	機能訓練指導概要
第11回	機能訓練指導の選択
第12回	機能訓練で提供する運動と要点(機能訓練測定法)
第13回	機能訓練で提供する運動と要点(機能訓練測定法2)
第14回	機能訓練測定法ロールプレイ
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

定期試験は筆記と実技の評価を合算し判断するため日々の学習について復習を推奨する。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席として実技試験を行う。

使用テキスト

その都度資料を配布します。

担当教員の実務経験

科目名	競技者外傷予防	対象学科	柔道整復生	学科	
担当教員	佐々木 祐樹	配当年次	2	開講時期	2学期
12L =1 4X 貝		授業形態	実技	単位	1

授業概要

競技者に対し外傷予防策を講じる上で、競技者の身体特性や外傷・障害の発生メカニズムの理解は必要不可欠である。更には、姿 勢や動作を評価・分析する能力、トレーニング方法を実施・処方する能力は競技者に対してのみならず、一般の人や高齢者を指導 する際にも求められる必須のスキルである。

本授業では、理論に基づき種々のエクササイズやトレーニング法を実践し、様々な状況を想定したディスカッションを繰り返すこ とで、適切に外傷予防プログラムの立案および指導ができるようになることを目的とする。

尚、授業内ではレポート課題の提出を求めることがある。

到達目標

- 競技者の身体特性・運動特性を正確に把握することができる。
- 2、競技毎の特性を理解し説明することができる。
- 3、エクササイズ・トレーニングの目的と方法を理解し正しく実践することができる。
- 4、目的に応じたエクササイズ・トレーニング計画の立案および運動処方をすることができる。

授業計画

O4 214 111	
	授業計画・内容
第1回	運動生理学(エネルギー代謝・運動と骨・筋)
第2回	スポーツ現場における救急処置法(運搬法・RICE処置・AED・CPR)
第3回	メディカルチェック・フィジカルチェックとフィードバック方法
第4回	動作の観察と分析
第5回	パフォーマンステストとフィードバック方法
第6回	スタティックストレッチングの理論と実践
第7回	モビリティエクササイズの理論と実践
第8回	レジスタンストレーニングの理論と実践
第9回	バランス・スタビリティトレーニングの理論と実践
第10回	スピード・アジリティトレーニングの理論と実践
第11回	競技特性から考える外傷予防法の概論
第12回	競技別外傷予防法の立案と実践 ①
第13回	競技別外傷予防法の立案と実践 ②
第14回	競技別外傷予防法の立案と実践 ③
第15回	定期試験
第16回	解説

授業時間外の学習

授業で学んだことを繰り返し復習し、自らの体を使って理解できるように学習する。また、学んだエクササイズやトレーニング方 法などを他者に指導し、自己学習していくことを推奨する。 また、全てのエクササイズ・トレーニング方法は解剖学・生理学の上に成り立っている。適宜、解剖学書等を参照することが望ま

しい。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験60点以上を成績の下限として総合評価を行う。

使用テキスト

全国柔道整復学校協会監修

競技者の外傷予防 第1版

デスレティックトレーニング学 アスリート支援に必要なクリニカル・エビデンス ※柔道整復学・理論編 第7版 外傷予防含む

担当教員の実務経験